

古今事類

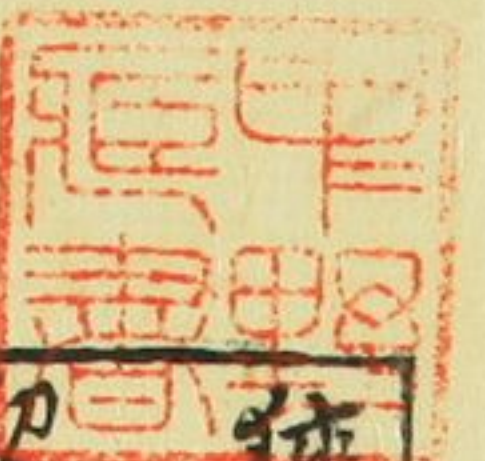
彙編



二

狭衣月録 並 年序

巻第一之上



三月廿二日 夜大將若花一枝ありて源氏よりてまゝり給ふ
 ○ 堀川乃園白梅の夜降りゆ方三人もまゝり給ふ
 ○ さ夜十八日 魚俵給藝さういふなり
 五月四日 狭衣大將まゝり給ふを中納言とせ給ふ
 五月廿二日 夜大將まゝり給ふを中納言とせ給ふ
 ひらりて 翠帯をまゝり給ふ
 六月廿二日 夜大將まゝり給ふを中納言とせ給ふ
 狭衣大將まゝり給ふを中納言とせ給ふ

狭衣月

○堀川殿(大納言)より地(地)よりあり次(母宮)より
つり○中宮と一宮と堀川殿(里)より○(一宮)より
より大納言より地(地)よりあり次(母宮)より○二宮(大納言)
より中(中)に引(引)く女(女)車(車)に大納言より引(引)く女(女)車(車)より
娘(娘)より仁(仁)に引(引)く威(威)儀(儀)仰(仰)しめ美(美)儀(儀)ゆきと大納言
より引(引)く女(女)の病(病)より引(引)く女(女)の病(病)より○堀川(堀川)大納言(大納言)の引(引)く女(女)
より引(引)く女(女)の病(病)より引(引)く女(女)の病(病)より○堀川(堀川)大納言(大納言)の引(引)く女(女)
より引(引)く女(女)の病(病)より引(引)く女(女)の病(病)より○堀川(堀川)大納言(大納言)の引(引)く女(女)

卷中一之下

七月(七月)大納言(大納言)と源氏(源氏)宮(宮)と其(其)ら引(引)く女(女)車(車)より引(引)く女(女)車(車)より
○大納言(大納言)の引(引)く女(女)車(車)より引(引)く女(女)車(車)より○大納言(大納言)の引(引)く女(女)車(車)より

○大納言(大納言)の引(引)く女(女)車(車)より引(引)く女(女)車(車)より○大納言(大納言)の引(引)く女(女)車(車)より
つり○中宮(中宮)と一宮(一宮)と堀川(堀川)殿(殿)より引(引)く女(女)車(車)より○中宮(中宮)と一宮(一宮)と堀川(堀川)殿(殿)より
より大納言(大納言)より引(引)く女(女)車(車)より引(引)く女(女)車(車)より○大納言(大納言)より引(引)く女(女)車(車)より
より中(中)に引(引)く女(女)車(車)に大納言(大納言)より引(引)く女(女)車(車)より引(引)く女(女)車(車)より
娘(娘)より仁(仁)に引(引)く威(威)儀(儀)仰(仰)しめ美(美)儀(儀)ゆきと大納言(大納言)より引(引)く女(女)車(車)より
より引(引)く女(女)の病(病)より引(引)く女(女)の病(病)より○堀川(堀川)大納言(大納言)の引(引)く女(女)車(車)より
より引(引)く女(女)の病(病)より引(引)く女(女)の病(病)より○堀川(堀川)大納言(大納言)の引(引)く女(女)車(車)より
より引(引)く女(女)の病(病)より引(引)く女(女)の病(病)より○堀川(堀川)大納言(大納言)の引(引)く女(女)車(車)より

卷中二之上

冬(冬)より引(引)く女(女)車(車)より引(引)く女(女)車(車)より○冬(冬)より引(引)く女(女)車(車)より

正年

正月さ家申細云大細云又ちりたちねくの給ふ

○大庭勅とりの給りたね(女二文とすすすとの給ふ

○さ家弘徴殿へあひ入て女二文に會合せしむる給ふ

と難めり○女二文乃母大宮あけあひはちねのあひこち

紙越女二文のそぎにせしむ給ひしと人給り

○ちね女二文に合しる曉又申文のくしゆきく紙越あ

く後朝の文とくき給ふ○中細云佐大ねけ後朝の文

と女二文(とてまつら

三月女二文悪阻せしむし給ふ

思は女二の乳らるるは母大文大付て妊とある給ふ

○文帝女二文のよしむと女二文ひりわしむ給ふ

○女二文のよしむ養せしむ里へあつて給ふ母大文と

○大文甲十五さ女二宮乃妊給ふはくして母大文の

懐妊と養せ

十月乃文誕生あり大宮の西産と養せ○帝も

はえりちと御の作はあり

卷中二之下

十二月大庭宮の女二文産せしむて七日又ちりてくれ給

○女二文ハ我ゆへ母宮大庭宮にくれ給ふ給ふあてて

つしふくしむて尼又ちり給ふちね女二文の尼又ちり給

ふ紙越の給ふ○宮の朝源氏文乃産す(又あすあて

とく宮のあててくれ大庭宮の給ふ○宮のあててくれ

校まつけるも其父の文を源氏とせり其父の源氏
 父乃代も其父の父を源氏とせり其父の源氏
 正行武部大吏の執事として侍り三河守に在る源氏
 其の奇りも其父の父を源氏とせり其父の源氏
 時におもふらり下されし扇とて目するも其の執事
 帝の御まへにありて侍り其父の父を源氏とせり
 夏は 帝の御まへにありて侍り其父の父を源氏とせり
 其の執事として侍り其父の父を源氏とせり
 ○帝の御まへにありて侍り其父の父を源氏とせり
 七月 帝の御まへにありて侍り其父の父を源氏とせり
 ○帝の御まへにありて侍り其父の父を源氏とせり

ありおれりしは其父の父を源氏とせり其父の源氏
 治へりしは其父の父を源氏とせり其父の源氏
 八月 帝の御まへにありて侍り其父の父を源氏とせり
 ○今又其父の父を源氏とせり其父の源氏
 即位ありて侍り其父の父を源氏とせり其父の源氏
 九月 帝の御まへにありて侍り其父の父を源氏とせり
 其の執事として侍り其父の父を源氏とせり
 ○一葉流ちや其父の父を源氏とせり其父の源氏

○在位上今姫君はつづき也まづりともなりきま
 二月 花梅の比今姫君のくまにさうけりんとて大納言虎上
 のまこと立給ふ○今姫君の内侍女房ともは後あきまけ
 ○今姫君に理髪といふ名あり○母代が飛鳥井姫君に年中
 細衣の増中今姫君の母代あはるはと大納言あきま
 ○大納言常盤へあきまきと梅川あてあひ給ひ○山外にあ
 けふあすの飛鳥井の姫君の甲十九日れうと
 ○常盤尾云大納言の姫君生れて百日の折あきまき
 うまきまきを給ひて一ふきのあきまきとつづき給ふと
 うらに六月初七日に三月○二月に今姫君の内侍まづり
 りま虎上の又大納言はつづき給ふ○今姫君は内侍後日と

とうふ秋御成上のお事幸お中お悪ひてお帰しとちり給ふ
 母代さつづきとて先母とよづの又中お成さつてまづ家

卷中三之中

し大納言朝とてあひつとあはらとあきまき飛鳥井姫君の腹を
 むきめえ給ひつとあきまきとて一ふきのあきまきのあきまき
 給ふと大納言のあきまき給ふと大納言のあきまき給ひて大納言の
 うら給ふとちり給ふとて給ひつづきまきとてあきまきとて
 梅川あきまきのあきまき大納言のあきまきとてあきまきとて
 一と帝へとあきまきとて大納言のあきまきとてあきまきと

六月一糸あきまきとてあきまきとて大納言とてあきまき
 ○親裁の大納言とて一糸あきまきとてあきまきとてあきまき
 院のあきまき

へそりけふはたおのきりあり

八月十日ふ一おまゝはたおのやがよちりけふ一おまゝはたおの
たおは廿二才あて九ありし。○中継云伝を軒あしく浪濤の
道まゝいふなりて一おまゝをたお方にしあるやとひいひ
けふ。○妹の母まゝ一のまゝいふまゝおの文を中継云
伝をせなる。○たお母まゝうづしてたおと一おまゝをいひめて
入給ふたおまゝをたおくして一おまゝのまゝまゝうづして入給ふ
朝の文はつらうとて浪濤の合道まゝいふなりけふは使はたお府
の願し。○しるつて女流分はたおさるた人のとてする
と障子れ穴よりたおのまゝにけふいふも井腰のたおの女
おまゝのたおとありまゝいふと障子をたおひて女立重

たおのまゝのまゝたおひのまゝけふいふまゝいふ
○一おまゝのまゝたおの娘まゝのまゝいふららけふも中継
とて女立一おまゝのまゝいふとて一おまゝのまゝいふまゝいふ
まゝいふまゝいふまゝいふたおの娘まゝもゆへはけふりた
おひはけふりけふもいふまゝいふ

十一月まゝまゝのは袴着八才の時たおのまゝいふけふつめてに
まゝいふまゝいふまゝいふたおのまゝいふまゝいふ
たおのまゝいふまゝいふ。○女流まゝいふたおのまゝいふまゝ
いふまゝいふまゝいふたおのまゝいふまゝいふまゝいふ
まゝいふたおのまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふ
まゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふ

一使役司

〇七

くろはらこ

巻中全見下

十二月宮ありし日の夕方の女院へお参り給ふ御のりづ
又机帳あがらして女院と見合せ給ふ○年のとくに幸
懸のほろゆきなり

正月こころ女院よりせ給ふしとて賀儀の女院あり
らしくはらぬ大まゝしつりのまのりぐらまねとんとん
さひまゝ

四月廿五日乃参りし日さへいふ世中ゆかりてさひまゝ
む○みまの目ちあむらつそと給ふ外一車あり一襖
ゆき車八例りちいふしつり○中院の参り流るるあ

甲子川とつり○溪院の女二女ハ茶女院へお参りしつり
て内弘徽殿とせ給ふとて同年とあれは平一方の時

○弘徽殿及びちとて三杯あむらつると参りし

○又中お参りしつりお参りしつりしあまみうらま

九月溪院の女二女はつらぬせんごう侍養一又八侍あむら
せ給ふお参りしつり又八月とて目こみまのり給ふ○お参り
つて又入道又の持佛堂にお参りしつりけいごのときとつり
の給ひて又その年のつりつりつりつりつりつりつりつり
まゝらしてやると又入参りあむらつり

十月女院のあや倉乃お参りしつりお参りしつり人長を参り
とまひお参りしつりあむらつりつりつりつりつりつりつりつり

後目

ちんとて曉は出ぬんとての言つて女院へすけりぬを
大納の母ともおぼしめて女院は翠れとひかせてさうけりて
母との河は神のまは打さへて夏末にさうけりぬを
大納と精進して唐山は七月廿二日ありおとふせんせき
路へとのぬふ○大納女院のうへにゆき翠れのもとにさうけりぬを
仙遊殿也神感とて神威とてひかり異香薫るより
○大納一室院の女院用とてせぬふとてさうけりて曉ま
りてひえの山へのけりやさんとして父母よとてまことひき
の女院より一室へ入りぬをさうけりぬを世にのぬを
跡とてひきぬり

巻廿四之上

○大納一室院の女院用とてせぬふとてさうけりて曉ま
りてひえの山へのけりやさんとして父母よとてまことひき
の女院より一室へ入りぬをさうけりぬを世にのぬを
跡とてひきぬり

○大納一室院の女院用とてせぬふとてさうけりて曉ま
りてひえの山へのけりやさんとして父母よとてまことひき
の女院より一室へ入りぬをさうけりぬを世にのぬを
跡とてひきぬり

○大納一室院の女院用とてせぬふとてさうけりて曉ま
りてひえの山へのけりやさんとして父母よとてまことひき
の女院より一室へ入りぬをさうけりぬを世にのぬを
跡とてひきぬり

○大納一室院の女院用とてせぬふとてさうけりて曉ま
りてひえの山へのけりやさんとして父母よとてまことひき
の女院より一室へ入りぬをさうけりぬを世にのぬを
跡とてひきぬり

陸の別番とあり、（中略）新申納云の中納も事お申おと
ちりげお鞠りてせてお納の花下申けるおありて各
と別おまびねるお納人ておひねるおに故式了のま
りて後式御那云の御君礼奉取ておひよとてお時
式了のまお六と平汁ある服迄にありおひよとて事
お申おの母もそのつおてに故仕大納云の御女納は似る
とておまおにひねるおをとお納の月よつる。○事お申
の嫌へお納又やりのひよ

四月陸の女納は後納陸の世もておまらりおひよ弘徽殿ありお
ひよ今のおひよ宮とておひよひよへお屋ありおひよは黒六掃
川邊。○春美の女納は後納の女もお屋ありおひよ

七月 今の中納入内
八月 大納云の御女納は後納の御君へつる御君も
九月 故式了のまお上尼よりおひよひよが龜おありと知心事今
七月 ありて後式了のまお上尼よりおひよひよ

卷中四之中

九月 故式了のまお上尼よりおひよひよが龜おありと知心事今
つり便あり大納後目とてお納お女日の御君もそれお納お
向給お皇女のえおやうお尼とてお年よりおひよひよて事おあり
くしよお入て御君も物ひひよひよお乳母つへお納おありて
てお納へお女納の源氏もよつておひよひよお納おありて
くしよお入てお納お女納今尼とておひよひよお納おありて

事お申おし給ふたおるよりおわんをせしめし思の事と
結納をせ給ふたおあきと案の新造の事と
給ふ○後一葉の内母女房が給ひて給ふたお給ふ
十二月事お申おし母女房の活取入儀のつりもあつた
給ふ○大お女房の思もよく吉白も事おのつりもよく
小お乳母の辨君せりりたお屏風もよくのり給へば
君を源氏とせし給ふ女余日の月一車もあつた
つきのせ乳母の辨君もひしてたお及堀川内お給ふ
正月十六日お女房が辨君つえあててつりもよく
も八男もよくつりもひもよくあつたつりもよく
つりもよくつりもよくつりもよく

異比 海一 又夕月よたお及海よまつり給ふ
巻中四之下

○あつた世中さうぐいしの事とあり○帝にたつた
と給ふ御位を女主人一世源氏よつり給ふ
○文帝の一事流へあつたお給ひんのもよありぬ○大
津あつたお給ひたお位つり給ひんのもよありぬ○大
院よりあつたお給ひたお位つり給ひんのもよありぬ○大
月放り帝はあつたお給ひたお位つり給ひんのもよありぬ○大
○あつたお給ひたお位つり給ひんのもよありぬ○大
のり給ひたお位つり給ひんのもよありぬ○大
八月帝の御位をせ給ひてあつたお給ひたお位つり給ひんのもよありぬ○大

てきて八月廿日内國儀したる後園白を六方たはたよめり
ておるとおの帝の位ははらざるをて柳河原とぞせらるる
おの母を六宮と名えとす○一宮を六つとてて云の上ま
て今とて中とて言して内なるに姫君を乳母とててせし
せ給ふ弘徽及ふお給ふ○又姫君姓とてちやまーははて
里はあはれやへ入内とす○殿上のわらわを女侍へはせし
て奇あり又勅答あり○又の姫君成今八又の女侍とてす
十月 又の女侍入内者重とてはる也

十一月 女侍一まうんで給ふ

四年 四月 年よりてうれお家に内儀のせせんお使定とせ給ふ
女侍(麻)も帝よりなすもせ給ふ○柳河原あてお給ふ女

は男お子とてみ給ふ○お給ふお給ふお給ふの女君とて一おりか
し給ふ今上とて奇とてんくは給ふ○こおやとておりお給
へ給ふおあり男お子とてし給ふおは給ふおありお給ふ
也○一おをおちやまーとておひ尼とており給ふとておとく
お給ふ○又の女侍 后よりちお給ふ
九年 又のやこれお給ふ大原とて平日お給ふとて給ふあり
九月 八又の給ふお給ふとてお給ふ
十月 十日平賀お給ふ○又お給ふお給ふの時今上の一宮とて
らとてお給ふお給ふお給ふの弘徽及ふお給ふお給ふとてお給ふ
あるとて一おりお給ふ今上の一宮の内とてお給ふも今給ふ四年
二又お給ふお給ふお給ふ今上の一宮の内とてお給ふも今給ふ四年

とありしは...
まじりの...
親を...
也今上の...
君の...
奏し...
也...
も...
よ...
○...
○...
○...

姫君の...
と...
○...
八月...
○...
一...
○...
位...

建永四年
九月廿一日

位せゆり終つて又の年此を土月まをさるん三の月六
おろしとふふと終らうのちわらそ年とふひあつての上
月まをさるせり甲巻八おろしき十月より又亦ふひ
年をうての六月まをひてせりぬ甲巻九帝八今年
されがまわふせり西三休の帝年八十二ヶ年しげり
二巻小巻紙のあつての耐とことせ世終るあつて
とあつてつとつとつと二十九年たふ秋のちやつとつ
くくくのみと兼慈甲午年季万の法東京黄基山釋
切臨劫之ヲ

使衣目錄終

使衣下細第一

以下ひもといふさあつもの抄をあらうこれ橋乃
わたりよるせり海づの物ごらりせりめ終る中
あもせ兼此あやまり終る終るをなまうことあり
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
くはた本をたんにんもこと兼もこと終るくして
るこゆくり兼そ乃終らり兼善堂の傍
兼るちうと兼合て造當此次終るん終るは
れ底より下細と兼終るあ家双紙をたんに終る
乃あつと終る兼懐中しつと終るは
兼源氏乃物終るのち見解あをひ終るは

使衣目録

一系孫同宗祇るものりてあそひ終つぬり
 より海釋ちるも終らるべし系圖を述進院及
 あそびをりつましくぬれ終りてふは流あそ
 んんとれあやまつてあそひ終つぬり
 天正十八年初冬ふ書字の功をりぬ沙弥中醒

狹良系圖

五十九年冬多身皇子

醍醐天皇御宇

朱雀院

村上

冷泉院 六十三

花山院 六十五

圓融院 六十四

三條院 六十七

小一條院

無即位

一條院 六十六

後朱雀院

六十九

後一條院 六十八

後冷泉院

七十一

一條院長徳之次源氏物語作之寛弘長徳長保

寛弘初也

顯光兼任右大將時右大臣

源河原は物語り刀足まも圓融院の二の西子也

系べし

伊輔 右大臣九条

伊尹 謙徳云一條法政

兼通 大政大臣忠義云 今上 狭衣の太極

境中納言

越守 為時

伊集部

源氏物語 左忠の控佐 皇孝の嫁

大式三位 狭衣作書

一 伊集部 源氏物語 此の如く多也 又花山 或は字 多門 軍と云 王治法と云 なりし 時狩 一 源氏物語

一 伊集部の源氏物語 一 源氏物語 此の如く多也 又花山 或は字 多門 軍と云 王治法と云 なりし 時狩 一 源氏物語 一 源氏物語 此の如く多也 又花山 或は字 多門 軍と云 王治法と云 なりし 時狩 一 源氏物語

と云ふちりべし

一申邊の菖も引交あそはさきうらとくれ菖
花松うらののをもあひくはう那ー古尋れと
とまじりり也

一而て乃こりり ひまは池やあでの川セハ
らん岸の山吹そともあへり 源氏胡蝶巻の侍
一侍童 同あ

一源氏文 さ衣のり 堀川大長乃上ハ先帝れ
はつもとうち也 後大長れは始へりさ衣乃は母也 申細云申お
ハ源氏文乃交也

一そひあせ也 二人の交也

一甚交 後一交也

一菖の志あひ 級交也 くくくとりとよあり級照
や片思乃ち也

一花こそ花れと 菖あ乃尋あるへし け初あく
定都 引ああよりまの菖は山吹乃花も花
の中より はつれ

一うちあひも 引山吹の花交あや やをれ
とんごあへ むらちちりあて

一はるを申細云答也

一つふせん尋 大将乃は山吹うらとへ

て独喰也

一 ぬいごいも尻引きさうみでいせいのいせいの我が
まやちのふらの打てやまのいせいのいせいの我が
おまは志家人のちまもといふこと

一 りをるをうらなるいせいのいせいのいせいの
の地はうへし

一 ひはれにうへし ぬいごいも尻引きさうみでいせいの

一 ちさいにおうて二番ふり姉妹兄弟のいせいのいせいの

一 てといふこと ぬいごいも尻引きさうみでいせいのいせいの
一 大なる母もいせいのいせいのいせいのいせいのいせいの

一 つはさうめ 是より双紙地也々れまであるべし

一 お院乃はゆいせん いせいのいせいのいせいのいせいのいせいの
ちまもといふこと

一 一院先帝北のりうと さ衣の法母也

一 洞院 太政大臣 法一院院出徳也

一 坊門 先帝の法子或アいの法乃はむいせいのいせいの

一 今上 けがの流乃一の文書もいせいのいせいのいせいのいせいの

一 一の家法中いせいの 堀川殿の法宮れおまもいせいのいせいの

一 親めさうそいせいのいせいのいせいのいせいのいせいの
一 事とと出せり 男もいせいのいせいのいせいのいせいのいせいの

一 二位の中將 さ衣れ南宮也天通とわがり也

て細^こい^いあ^いも^もあ^あ〜終^はす^すめ^めと^と也

一^い壯^{じやう}十^{じゆ}六^{ろく} 三^{さん}十^{じゆ}塵^{じん}點^{てん}功^{こう}若^{じやく}大^{だい}通^{たう}智^ち務^む仏^{ぶつ}と^と中^{ちゆう}仏^{ぶつ}

ま^まし^しく^く々^々俗^{じやく}び^び仏^{ぶつ}の^のま^まじ^じ王^{わう}位^いの^の時^じは^は子^し十^{じゆ}六^{ろく}人^{にん}

あ^あつ^つと^と如^{じゆ}道^{たう}乃^の後^ご仏^{ぶつ}の^のへ^へ活^{かつ}し^して^て活^{かつ}来^{らい}子^しと^と如^{じゆ}法^{ぽう}め^め

入^{にゅう}滅^{めつ}の^の後^ご十^{じゆ}六^{ろく}人^{にん}菩^ぼ薩^{ざつ}達^{たつ}を^を成^{じやう}利^り益^{やく}と^とて

十^{じゆ}方^{ぽう}あ^あ〜て^て佛^{ぶつ}り^り成^{じやう}結^{けつ}へ^へり^り中^{ちゆう}十^{じゆ}六^{ろく}あ^あめ^めの^の活

子^し引^{いん}出^{しゆつ}の^の婆^ば婆^ぱ世^せ界^{かい}あ^あ〜て^て如^{じゆ}法^{ぽう}を^をと^とち^ちに^に結^{けつ}へ^へ

了^{りやう}引^{いん}出^{しゆつ}の^の釋^{しやく}迦^か如^{じゆ}來^{らい}也^也

一^いお^おろ^ろふ^ふだ^だら^られ^れ 引^{いん}太^{たい}を^をら^らい^いお^おろ^ろふ^ふら^らの^の神^{しん}と

が^が那^なま^まち^ちら^らる^る若^{じやく}法^{ぽう}風^{ふう}は^はま^まら^らせ^せト^ト

一^いじ^じ世^せと^とは^はら^らと^とそ^そあ^あ〜い^いお^おろ^ろふ^ふ〜て^て如^{じゆ}道^{たう}の^のあ^ある^る如^{じゆ}

世^せり^りあ^ある^ると^とあ^ある^る人^{にん}と^とが^がお^おろ^ろふ^ふ〜め^め〜々^々あ^ある^る也^也

あ^ある^る如^{じゆ}と^と世^せ上^{じやう}人^{にん}お^おろ^ろふ^ふ〜〜〜あ^あの^のふ^ふと^と双^{じゆう}紙^しと^とす^す

一^いく^く〜と^と そ^そと^とを^をく^くら^ら也^也

一^いあ^あま^まの^の如^{じゆ}の^のち^ち〜法^{ぽう}一^{いつ}熱^{ねつ}り^りあ^あせ^せり^りと^とも^も何^{なん}れ^れり^り〜

一^いち^ちや^やも^もあ^あん^ん鋼^{こう}也^也

一^いち^ちや^やみ^みて^てむ^む入^{いり}ぬ^ぬら^らし^しも^も此^{こゝ}草^{くさ}も^もも^もや^やみ^み〜と^とき^き〜あ^あく

一^いあ^あ〜と^と〜の^のあ^あり^り也^也

一^いつ^{いつ}も^もち^ちり^り引^{いん}年^{ねん}と^とは^はあ^ある^るみ^み〜と^とう^うら^らに^にあ^ある^る事^じと^と

一^いを^を成^{じやう}の^のあ^あら^らの^の滋^しま^まさ^され^れと^とや^や大^{だい}如^{じゆ}乃^のあ^あり^りと^と

一^いさ^さ衣^い乃^のあ^あを^をら^ら〜り^り 法^{ぽう}は^は〜り^りあ^ある^る也^也 北^{きた}三^{さん}狭^さ

一^い衣^いれ^れち^ちり^り〜法^{ぽう}法^{ぽう}と^とあ^あれ^れ人^{にん}の^のん^んち^ちら^らる^る事^じと^と

一 經緯ありて... 引其の事... 我を... 梵網經... 花嚴經... 二尊院... 九月... 下巻也... 一 經六... 一 源氏文... 今夜の...
一 經緯ありて... 引其の事... 我を... 梵網經... 花嚴經... 二尊院... 九月... 下巻也... 一 經六... 一 源氏文... 今夜の...

一 中將乃... 一 源氏文... 今夜の...
一 中將乃... 一 源氏文... 今夜の...

又司のりあてりていふはうしんをのりよらあり
善ありのたより きの城別
一志のよもぢりあつていふはうしんをのりよらあり
悪らあつていふはうしんをのりよらあり

一太政大臣の所むきあ 今昭憲天皇の
路へ後一系路へまうしんをのりよらあり
洞院の上六輪川のおもむきあ

一善あつていふはうしんをのりよらあり
内と申ハ一系院也

一申の善あつていふはうしんをのりよらあり
善あつていふはうしんをのりよらあり

一十部のりよらの里 十部は別よらあり

一十部のりよらの里 十部は別よらあり

一うがもぢりあつていふはうしんをのりよらあり
ぬもぢりあつていふはうしんをのりよらあり
一と申ハ一系院也

一あつていふはうしんをのりよらあり
信よする也

一あつていふはうしんをのりよらあり
大将のりよらあり

一あつていふはうしんをのりよらあり
大将のりよらあり

一あつていふはうしんをのりよらあり
大将のりよらあり

一あつていふはうしんをのりよらあり
大将のりよらあり

一あつていふはうしんをのりよらあり
大将のりよらあり

一あつていふはうしんをのりよらあり
大将のりよらあり

一あつていふはうしんをのりよらあり
大将のりよらあり

一あつていふはうしんをのりよらあり
大将のりよらあり

一 朝のおやめいさま
ひつとくちのちり

一 志しぬまの 白泥しろぬいを

白泥しろぬい末ま高たか志しく波なみちものん秋あきあつうくれあ

一 志しとま 村根むらねちる信のぶ乃の破やぶ末ま志しとる也

一 志しんくも 源氏げんじあもはけ河があり。くうれ源氏

一 志しも一 草くさ此こ文字もじ也 倍やよ大和たわ能のうととも

一 志しもわらでの草くさ 朝あのおやめもしみくわら

一 草くさしゆへとも

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 志しもくちのちり

一 ありし時 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々

一 ありし 年々

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

一 ありし 年々 なるなる

さくらんぐし
大納言 南宮 権中納言 田巻 一の 大納言 田巻

夏せしんようをて中納言 権中納言 権中納言 権中納言 権中納言

左兵衛 権中納言 権中納言 権中納言 権中納言 権中納言

源中將 さき也 合奏もくして独り

中務 少將 笙の節 少將 弘徽及少將 天雅 天雅

中少也 独り 独り 独り 独り 独り

中少也 独り 独り 独り 独り 独り

中少也 独り 独り 独り 独り 独り

中少也 独り 独り 独り 独り 独り

中少也 独り 独り 独り 独り 独り

うらとま〜い〜い〜い 中將の心をえちるどはあは
ち〜い〜い〜い〜い 夢の成るといふこといふく
〜い〜い〜い〜い

うら〜い〜い〜い 夢の成るといふこといふく
〜い〜い〜い〜い

うら〜い〜い〜い 夢の成るといふこといふく
〜い〜い〜い〜い

うら〜い〜い〜い 夢の成るといふこといふく
〜い〜い〜い〜い

せきし門又父母の所へ送あがりてまゐりて
うし此詞を信じて

一 雲興 可也

一 ありし 西門乃信句はせきし父母の
さしん事と思ふ也

一 一 院

一 け言せむ 女一をて西門母后も
也あめわつ所を此下し然乃男の代
多へと思言せと路氏のまよん
路りて弘徽皇后の事と此
うりてあまもさしん事と思ふ也

奏しあふは教りて
あふ送るまふにありて
ぐありし也

一 后もあのみや 女二をて
せられて天上の御下ありし也

一 大后あり あり川あり
あつらに伊勢の事
とすすもさしん事

一 おおん 天上の事
るはらの中を母文おがら
一世はらふ

一 院

一ちく海川引弁あ動 あり川原禁中への居た
うしれは海乃るゆ

一色めはくしく 壁のほくもちんし

一中將 ち長乃山連り 及上の御所にお給ふこと

一ためくしそ 海へ咽あつらゆか思慮ありては

一あへまほひくく 何事もいひをいゆりしあふ

一の御し本娘乃外甥弟ちもいへし人終らぬそ

一あもあれくとも 出くるといふむいけくうふ

一進あともいひたしとあひひーと也

一つふ又 只此一男と也

一ほくあんぢふはくく 是れありやう

一中將 ことしあはれはまらさびき流くちちん

一みのあも 夫のそ衣れ代り女三女をまのくせん

一の山門乃は奇也

一山あやと女三宮れはるすと推考ちちく武彦也

乃ゆり源氏えあふと也あひいぐぬちあふち

あううううううう

源氏物語

の古

とものうし用也

一花より多くれ 引もたさるる記の事ごとく強ちる勢云
ともたちちをみればやどハハハハハ

一衆のすまうり さまを弁也時多のどくくちんを
やん人のる事と也

一かたの金山 強敵甚微妙 注花亭亦 稼言注
花と伝はりんとその臨白甚おの光あて

八千の世界をてし終る時より東方此園之の
はれ月おのりしとさるる終つた文也

一あまりあるあつたさ敵が 又兜率天のむくよ
しうちもさうしともさうしとくさう也

一み腹の事

一多しひき 極暑の比つちを也 三益山よりあり

古連教人ハ中しくおひちりき 衆をくはれ
多れ啼くさう 胸尖のどくおとまをのまん

とれを終るり火の如くゆるゆへりえ吾ふり
一秋院 さうの所中一原氏文のゆいとも也

一怒又中将 比日元スん 浮現物候のちちるべし
女一えと白うふとのり原氏字治巻りゆら

一秋よりり 狭衣奇し 衣ハ鴻の襟をむり
後むちしと衣も年るて原氏の文よちのび

あつたてりや

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

一 思ひきり引くの川思ひきり流るるの事

太政大臣 一条院の御流

太政大臣

一条院の御流

東院上

花大屋 今移中納言春宮大支兼宮

一丈の垣もこれ秘さくしんじまの びは方深成文
うらふせもくしんや也

一みぶくしくくゆる ち海深まとおき所王孫成今
娘君月悔を

一ちくごう 鼻ちや也さ衣前うとうり刀入に推
異もあつたぬとごる也

一涙くえまれ さ衣の執久をとおどらんて
あうりし時乃ち出さうく也をうら女のお
也

一花院の 別事ハ山懺慙ちがうぬるのうくハ
くくハ別事あるれどくうく有秋ぬすくおそ
るく人まうくも人のよまをくもされても
しとむうくごり也おとこの今れく人く
一ひらうあるは 別事ぬるの終くくくし
也

一のいも一妻 第れ録り女二宮のくも

一うちくあも 女二のま乃あしゆああんうく
られくくんも也

一あおむのう さまのらて中くちあびの
んとつひのぶれはあうく

花大屋

東院

足も也

一 中宮 柳川殿乃ほむじとめまゝ乃ほ母坊門
上ぐちよは履もあそくもす也

一 柳川殿乃ほむじとめまゝ乃ほ母坊門
ま根本の心也 可後上あうくお野乃りと拍

りとの心はよりすしれちくけりけりは同心也か
ありうあそ又わらうちうちんは履とこらうち

和字とし源氏ぶうくしん也
くくも履くしん也

一 中將 さまを源氏とのうくあぬ履くしん時り
うくも履くしん也

あまうけいひひらうりしん也
一 履くしん也

ひらうりしん也
ひらうりしん也

一 入ある後 さまの心也
一 入ある後 さまの心也

一 入ある後 さまの心也
一 入ある後 さまの心也

一 入ある後 さまの心也
一 入ある後 さまの心也

これららんせよ。物あひりうのついでに只をのびせし
りうらあみをも路り

一 源氏文 妻らあはら申あらんし

一 ありまも 古物^{ナホ}ころあらんし。ま^{ナホ}あらんし。は
ころあせして^{ナホ}

一人のあまもて。このあがれとあらんし。あらんし。我
あらんし。あらんし。あらんし。

一 ありあ 申あらんし。物ころあらんし。あらんし。
あらんし。あらんし。あらんし。

あらんし。あらんし。あらんし。あらんし。あらんし。
あらんし。

あらんし。あらんし。あらんし。あらんし。あらんし。

あらんし。あらんし。あらんし。あらんし。あらんし。

一 わる心 狭き言せうらわら

一 海しあらんし。あらんし。あらんし。あらんし。あらんし。
あらんし。

一 せんし。あらんし。あらんし。あらんし。あらんし。
あらんし。

一二 条上人文 仁如寺の威^{アホ}候所。あらんし。あらんし。
あらんし。あらんし。あらんし。あらんし。あらんし。

一 此の山は... 飛鳥... 龍音... 龍音... 龍音...
一 此の山は... 飛鳥... 龍音... 龍音... 龍音...
一 此の山は... 飛鳥... 龍音... 龍音... 龍音...
一 此の山は... 飛鳥... 龍音... 龍音... 龍音...
一 此の山は... 飛鳥... 龍音... 龍音... 龍音...

一 此の山は... 飛鳥... 龍音... 龍音... 龍音...
一 此の山は... 飛鳥... 龍音... 龍音... 龍音...
一 此の山は... 飛鳥... 龍音... 龍音... 龍音...
一 此の山は... 飛鳥... 龍音... 龍音... 龍音...
一 此の山は... 飛鳥... 龍音... 龍音... 龍音...

一 此の山は...

一 此の山は...

一 物おろし 能高升美のんは法師りんじしと
 てあつてし入流りこま後まづつしくあつて
 ちらんぐ
 一 大輔の志 むくの車よそくちらんちらんぐし
 一 物おろし 能高升美のんは法師りんじしと
 一 うちもこまされ うちもこまされ
 一 ありしう さま乃は心申也 ありさ家宿せり也
 一 つてや 法師よまあれつらんちらんぐし
 一 ありしう ちらんじり増ひおれし流りんじしと
 一 能高升美のんは法師りんじしと

一 ちらんぐ
 一 大輔の志 むくの車よそくちらんちらんぐし
 一 物おろし 能高升美のんは法師りんじしと
 一 うちもこまされ うちもこまされ
 一 ありしう さま乃は心申也 ありさ家宿せり也
 一 つてや 法師よまあれつらんちらんぐし
 一 ありしう ちらんじり増ひおれし流りんじしと
 一 能高升美のんは法師りんじしと

ちるべし

一 ありていあく 法師ふんふくもあはれは狭義
岩執とあはれ

一 ありていあく 源氏もあはれもあるべし

一 ありていあく 例の系漏と今うきり 師中納

一 ありていあく 源氏の増今増義とあはれ

一 ありていあく 源氏の増今増義とあはれ

一 ありていあく 源氏の増今増義とあはれ

一 ありていあく 源氏の増今増義とあはれ

一 ありていあく 源氏の増今増義とあはれ

一 ありていあく 源氏の増今増義とあはれ

一 ありていあく 源氏の増今増義とあはれ

一 ありていあく 源氏の増今増義とあはれ

一 ありていあく 源氏の増今増義とあはれ

一 ありていあく 源氏の増今増義とあはれ

一 ありていあく 源氏の増今増義とあはれ

檢非違使^の新^に 齋^{はら}敷^か少將と獲^と取^りの^は名^な次^つ傳^づ治^ち
 ひくろ也^也内^の大^{おほ}納^{のう}和^わ新^{しん} 齋^{はら}敷^かとてを代^{しろ} 傳^づ治^ち也^也
 別^{わか}當^{あた}を^をあまの^をあまの^をあまの^をあまの^をあまの^をあまの^をあまの^を
 さかんといふ也^也は^はら^らか^かい^いま^まれ^れく^くま^まら^ら女^を
 と^とも^もあ^あら^らし^しめ^める^る也^也
 一年^{いちねん}あ^あひ^ひく^く 乳^ち母^ぼの^の視^しを^を我^{われ}を^を年^{ねん}を^をあ^あら^らし^しめ^める^る
 さ^さそ^そふ^ふ人^{ひと}を^をあ^あら^らし^しめ^める^る也^也
 ら^らん^ん也^也
 う^うら^らな^ない^いく^く 婦^{つま}を^をあ^あら^らし^しめ^める^る也^也
 と^とも^もあ^あら^らし^しめ^める^る也^也

一^いつ^つと^とり^りあ^あら^らし^しめ^める^る也^也 奥^{おく}列^{りやう}の^の將^{しやう}軍^{ぐん}れ^れめ^める^る也^也

一^いつ^つと^とり^りあ^あら^らし^しめ^める^る也^也
 一^いつ^つと^とり^りあ^あら^らし^しめ^める^る也^也
 一^いつ^つと^とり^りあ^あら^らし^しめ^める^る也^也
 一^いつ^つと^とり^りあ^あら^らし^しめ^める^る也^也
 一^いつ^つと^とり^りあ^あら^らし^しめ^める^る也^也
 一^いつ^つと^とり^りあ^あら^らし^しめ^める^る也^也
 一^いつ^つと^とり^りあ^あら^らし^しめ^める^る也^也
 一^いつ^つと^とり^りあ^あら^らし^しめ^める^る也^也
 一^いつ^つと^とり^りあ^あら^らし^しめ^める^る也^也
 一^いつ^つと^とり^りあ^あら^らし^しめ^める^る也^也

一^いつ^つと^とり^りあ^あら^らし^しめ^める^る也^也

一^いつ^つと^とり^りあ^あら^らし^しめ^める^る也^也

一ういふやうに 鶴へりさるべしに若狭海へても
いふ又鼻へもまゝにいふも也少お後西ひ物
へどもおついであふいと云御し何とて世に
一しぬりんと泣ちるべし
一志どりのほどあるに 姫君の御也我力法
るひてうろ下ぬと也
一ゆくはらでうらあふべしとて 又おお後の心原
き縁んをそとぬふべしとて又あふまゝに
今う鼻へて下にもあるまゝにさるの也いふ
まことりて

一いぬくう 姫君の心あり

一これとてに さ衣のゆかしくしゆへ海をちりりと
てみ^性らのくへりさるべしあのをたうさあまゝに狭
衣もあふらゝとて縁おついであふとておまゝに
ゆくあのをせれとてぬ契りともひるべしあ
ゆふ也 引あふちるものうす家ちたにせ縁
ゆくとあまのふちれたとやとてあふは 源氏
タウかのまゝにあり
一源氏のまゝに 在又中將乃古繪ゆき
て何の光りしぬりぬまゝに引備ゆき
まゝにありしあふちる分縁ゆきしては
まんとさるあり

一人めしそ 源氏女を在又中始乃時乃やうあらう
まじりしと取山色まじりしとあがりしゆす也
一宮中の水れ 引奇東御流ぶくとやうのあまき
人らちる也

一太夫 さまの母をよと慕うてせ給ふ時

一きんぎょう 源氏女とあると 源氏抄弄花

一ありあり 倭よりいさんのい

一あねと一ね 女のいふちうハ 引奇 杖の杖女

と一夜よりあをりしとをいふてあやめい

あそくして八の敷しとハク入くとつとらん

なり 源氏女あむ時のおくんとハ源氏抄

源氏女とあると

一きんぎょう 源氏女とあると

一あねと一ね 女のいふちうハ

と一夜よりあをりしとをいふてあやめい

あそくして八の敷しとハク入くとつとらん

なり 源氏女あむ時のおくんとハ源氏抄

源氏女とあると

一きんぎょう 源氏女とあると

一あねと一ね 女のいふちうハ

と一夜よりあをりしとをいふてあやめい

て度のと八幡川殿乃事のあつたハニ多入乃事
一 八幡川殿乃事也

一 本朝 太政大臣 忠俊の次子らひとゆふ事と

といひ終へたる今始末事ありてゆふ事と
むら終へたる用也其の事將といふ事也

一の終へり

一 光帝 式部卿宮

源氏文

後式部卿宮

宰相中納

一 男子 式部卿の次子ありて

母八事お中納の子とゆふ事と
系圖此母姓熊尼云の婦

一 娘君 若菜の后

と名の位位此時一とあり
八幡川殿の事あり

一 系圖 式部卿宮乃中將とわれは八幡川殿の次子

一 志のつと 志のつと人のあつたり

一 志のつと 志のつと人のあつたり

一 志のつと 志のつと人のあつたり

てあまごころを好くも也

一 了るくくくくく さまんをわらわらり

一 蝉鳴 黄葉漢官秋 朗詠 凱 蟬 許渾 作也

漢武帝崩して荒れを蟬 八音 八音とく 啼とく

一 さだかりうくく 茶ふりかんるん かく わくささび

ももも 紙の地也

一 目の雲り 引り 若れ花のひもとく 秋の乃

あひひもあまきん人なごらめう

一 我々いもと 福うくくくくく ぬめめとく ごとく

一 かりめひ也 かくもくくく 若れ 音尾 ちるべ

一 かの野とちれ 藤巻村の小家とかり かくく

づるくくくくく ぬあがくくくく

一 かりして かくくくく 井の窟也

一 こらくくく 引き未也

一 ひもの 深氏とかりひくく 若れ 思ふくく

一 じもと 深氏とのくく 若れ 井の世のあじ

とやあくとかり かくく

一 浪のり 若れ かくく 若れ かくく 若れ かくく

一 かくくく 若れ かくく 若れ かくく 若れ かくく

一 若れ かくく 若れ かくく

一 かくく 若れ かくく 若れ かくく 若れ かくく

漢文

漢文

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

こうのうしと末史

一 齒しとや 刺傷乃三人今唯志をむくはつり
 うらまわれはるもむらみかしのあふに人しと
 くともやあはれはくくくくくくくくくく
 又ちあはれはよめはあはれはくくくくくく
 めのともあはれはくくくくくくくくくく
 まらり人ち死すはれはくくくくくくくく
 一 せりくくく 歯唯志は母れあはれはくく
 ちりぐんちるあはれはくくくくくくくく
 此妹今唯志乃母上也
 一 ゆくくくくく 母代りきりもあはれの
 上へ

母代をいふはくくくくくくくくくく
 のんれはあはれはくくくくくくくく
 うくくくくくくくくくくくくくく
 ぞあはれはくくくくくくくく
 一 くるくく 唯志の親をいふはくくく
 後上人ちるくくくくくくくくく
 一 志はと唯志はあはれはくくくくくく
 あはれはあはれはくくくくくくくく
 もくくくくくくくくくくくくくく
 まらりあはれはくくくくくくくく
 みらりあはれはくくくくくくくく

一九日ある所の 縣に除月日未だ有る事一書
ち録をいし 未だ改修あり 源氏等よりある
一うちをびやうり 中納言兼也内又其
先大後へいし 録くこといもあつたゆ
おがしめす也
一切の事おのつて 乃は今始末此西村へい
一かの后 中交やと 始末此西村へい
建しあつていし 録くこといもあつたゆ
ひしあつていし 録くこといもあつたゆ
乃録をいし 録くこといもあつたゆ
乃録をいし 録くこといもあつたゆ

一やうく のつていし 録くこといもあつたゆ
一うらむして さあつていし 録くこといもあつたゆ
乃録をいし 録くこといもあつたゆ
乃録をいし 録くこといもあつたゆ
一びやうり 中交やと 始末此西村へい
一乃録をいし 録くこといもあつたゆ
一乃録をいし 録くこといもあつたゆ
一乃録をいし 録くこといもあつたゆ
一乃録をいし 録くこといもあつたゆ
一乃録をいし 録くこといもあつたゆ

中

一 ぼやく 倭よふりひくおぼたど喉がつかへふふ
相ちるんし

一 ちのみをれ あんぞで 不細おぢ

一 ちとくえ 湯入と云縁入と云んちるんし

一 ちつふ あぢのうれう海の橋れんちるぢわ

一 ちのちえ 志くじうちる海 琉球と云る海の橋
と云ぢぢ

一 ちうくしん

一 ちくぢ 母代と云ん ころる 源氏物語に王命ぬと云日

一 ちりしん

半誤族

一 ちくちん ちれりちぢのん

一 ちやちぢぬ人 白んちんちんちんちんちん

一 ちんちんちんちんちんちんちん

一 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

一 ちんちんちん

一 ちんちんちん 母代ちんちんちんちんちんちん

一 ちんちんちん

一 ちんちんちん 母代の親ちんちんちんちんちんちん

一 ちんちんちん ちんちんちんちんちんちんちんちんちん

と云々と唱へては、見申すに、
人の心もなるまじくあり

一 妻たるも、母と、
母たるも、まゝなれば、
心判とせのど
く、志人の口中、
此らありし、
て唯乾也のど

一 参り、
母代とせ
一 参り、
人々の心も、
なりし、

一 又あるに、
志とせ、
や、
の申す、

一 此の川、
海より、
波も、
た、

一 参り、
母代とせ

一 又あるに、
志とせ、
や、
の申す、

一 此の川、
海より、
波も、
た、

一 参り、
母代とせ

一 又あるに、
志とせ、
や、
の申す、

一 此の川、
海より、
波も、
た、

一 参り、
母代とせ

一うらまゝ 今ひめ若れ共し一のふも
一むらぬまゝのあやう 人へのなりてうらまゝ
一しほくさ

一あつちく 興あつたしとまにえまむき
てさなとからあつちくなりとまのあつちく
かうまやも

一初めと 今若君一服式了のまのほ子と
出少将こまにうらまゝなりとまの
と色同様なりと中將もなり

一又の日後乃ほあまゝ 今若君のま
路り

一うらまゝのあまゝ乃ほまゝのほ子も
まづくくあまゝめすちる人し

一本下れ あつちくを念じぬまゝ
ほ氣まゝとまゝのほ子とまの
どあまゝもまゝのほ子とまの

一あまゝと 福あまゝのうらまゝ
うらまゝとまゝのほ子とまの
まゝのほ子と

一うらまゝのうらまゝ
一うらまゝのうらまゝ
一うらまゝのうらまゝ

一 夫とては、
くく、
色、
人、
せぬ、
用、

一 夫とては、
くく、
色、
人、
せぬ、
用、

一 夫とては、
くく、
色、
人、

一 夫とては、
くく、
色、
人、

一 夫とては、
くく、
色、
人、

日づつうつとのおれどおのぶあぢうのうあへあ
るくもとりりあ

一 我を何ぞあて さいのほ初とあなぐらふもあ
られとあがり一 免されどくは色うく一 終
路あぬとしやしあもも契さうくくあらるは
とれああいどこのまらうくのもあとねは
ひ別苗のあおとあとりせ終くもせとああ
と一とらあ也

一 いろふ水 儂ぬまはあはうあ若の福はあ
てささふああうくあんとそあひふ 又ささふ
ああうまう一うくとああられうあひく

一 せつうへま 人あてあう かあああていあ一とあ
うくそあひ 年々くくうとああもあもあ
ど又あてたあはあうとああういあうとあ
もあやとさうくとあうとあ

一 ありあのうへせ 川岸 ああ
うくうあうり 懐妊ちうべし 東へ下のあひ
とみるうりああ一あうりうくまうあああへあ
あうり一あうとああ

一 どのむいばあ さまとまんあうこのあうとあ
あああああ
一 月くぬいあといあひちうぐ 懐妊とああめり

さんとはおのひちがくくちをてにまうしてひひ出
のふべまやうもあくて下れ日とくぞんく歌
路へり 古今世のうき目々ぬふ路へくくんぬ
あふんもあてりたりたれ 田中とてぬじ

一 げん乃

さ衣の乳母

大育の帝もあまた

式部太補をぬ

こちのまゝ さ衣のはあちうくをまひま

ひまのうき 若陸守のある

一 めもちるくて

ひまのうき 独作也

一 ちかしくい 養育抄ノ巻ハコトハ入路とぬよ乳母也

みづり 付く事也

一 ちかしくい ちかしくいまていなる也。く事
ちかしくい 威儀師もお遠也。ちかしくい
ちかしくい ちかしくい ちかしくい ちかしくい
ていばやるるべし

一 ちかしくい 乳母のあつりちかしくい。ちかしくい
ち使のちかしくい

一 寺 ちかしくい ちかしくい ちかしくい ちかしくい
ちかしくい

一 ちかしくい ちかしくい ちかしくい ちかしくい
ちかしくい ちかしくい ちかしくい ちかしくい

一物ごとく 履の字もどくあり

一ツでさち 料もどくびり送也

一はくし人のせうちりして娘をうへあひまへのか
まはさふまりぬは懐妊もてあるも乳母がひ
あせり

一うらまへんち 命もあうらまへりしよは懐妊

一あひまへんち 我ちうらまへりしよは懐妊
一胎分ちとち 胎の思ひの思ひり。うらまへり
さ長の思ひし ひとちうらまへりしよは懐妊
かうらまへんち 胎の思ひあはんと也

一あひまへんち 胎の思ひうらまへりしよは懐妊
一うらまへんち 胎の思ひうらまへりしよは懐妊

一胎分ちとち 胎の思ひの思ひり。うらまへり

一胎分ちとち 胎の思ひの思ひり。うらまへり

一胎分ちとち 胎の思ひの思ひり。うらまへり

一胎分ちとち 胎の思ひの思ひり。うらまへり

一胎分ちとち 胎の思ひの思ひり。うらまへり

尋ねてもみよ。又び世体さつりつみらん事深き
と流るる身水とらひはさよともあうらん
のまじりしじ也 瑞夢

一 度の 物忌乃るりあやせらるしに世をさへ
物忌りかゝるるに物も入る又いづれとせ
ぬ物忌界のりぬと原氏と云

一 海ぞ 汚懐妊とあがりめーあやせらるる
あまの川等しんこれありーさ夜のよ也

一 此又海くまれむく運らるる等しむらり
わくらん 飛鳥針を弄し ぬまのうらあ
とあわたりとらんや也

一 ういふは なる成かはるへの作ら車しるあふ
と云細いむとやこれをして世とあやう

一 女も むくし八升 垢下床忌欲虚言を乳母
つあを威候師りる車海らるるをちとら

一 うくの 世中一りあうりも身時八山林の栢
求とやうく身はまばる人ちとも男成る

一 海とく 隣家ニ駿河守がめ君情あはれ
みる虚云也

一 してあめ 射ぬれおあ度とさ夜の名あふ
るば乳母と古知るといふ也 あんでう事

東久野

のり

一 久々 出崩 乳母 母 子 母 子 母 子
くもや 乳母 母 子 母 子 母 子
一 どう 母 子 母 子 母 子 母 子
一 女 母 子 母 子 母 子 母 子
也 母 子 母 子 母 子 母 子
母 子 母 子 母 子 母 子
又 母 子 母 子 母 子 母 子
一 や 母 子 母 子 母 子 母 子
そ 母 子 母 子 母 子 母 子
一 急 母 子 母 子 母 子 母 子

一 久々 出崩 乳母 母 子 母 子 母 子
くもや 乳母 母 子 母 子 母 子
一 どう 母 子 母 子 母 子 母 子
一 女 母 子 母 子 母 子 母 子
也 母 子 母 子 母 子 母 子
母 子 母 子 母 子 母 子
又 母 子 母 子 母 子 母 子
一 や 母 子 母 子 母 子 母 子
そ 母 子 母 子 母 子 母 子
一 急 母 子 母 子 母 子 母 子

ちぶらねひりゝのそらふめのとれきまのぼと
おがしめす神也

一 心をちくね式又神よそくゆ國へときんぐんぞし

一 あり川さひ 車もて門敲たをさすり紙也 駿河

一 あり川と さ夜より夏中れ紙とらり紙と

一 ありのらとしててふの著りしはおあくをいつと
とのん中し物うあ入りさ夜へぬああるとんあが

一 ありあがらうぞれうひ紙り
一 久しう 遠路ちどくせんあの中也

一 沸らる海 夏也

一 あまのそとそり さ夜のそひああ耐ふるはと
へとも也

一 ち夜とさ さ夜へ中しり事とあるべし

一 めのと又一人 女の同車

一 門ひまのり 道成がちちるべしやちるべし

一 武官具也 牧を火の法奇ニ系よて神

一 けのめし
一 そくろちる さくやちる男也 道成也
一 大勢屋 はの國ちるひ也

表紙

甲子

一 中納言殿 今夜の御覧し

一 ささく。 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 御覧し 今夜の御覧し 御覧し 御覧し

一 我志とこそ させとせし 石をきくく
一 おれとこそ 善持とこそ けしきあり
一 わたして しろまわらば 添代なりあり
一 世はうつて ちうとせしとて けさるるに 心もすれど
一 秋さ夜も 拾ひくさるる也
一 ちうとせし 善持とこそ けしきあり
一 わたして せしとて けさるるに 心もすれど
一 秋さ夜も 拾ひくさるる也
一 世はうつて ちうとせしとて けさるるに 心もすれど
一 秋さ夜も 拾ひくさるる也
一 けさるるに 心もすれど 秋さ夜も 拾ひくさるる也

一 けさるるに 心もすれど 秋さ夜も 拾ひくさるる也
一 けさるるに 心もすれど 秋さ夜も 拾ひくさるる也
一 けさるるに 心もすれど 秋さ夜も 拾ひくさるる也
一 けさるるに 心もすれど 秋さ夜も 拾ひくさるる也
一 けさるるに 心もすれど 秋さ夜も 拾ひくさるる也
一 けさるるに 心もすれど 秋さ夜も 拾ひくさるる也
一 けさるるに 心もすれど 秋さ夜も 拾ひくさるる也
一 けさるるに 心もすれど 秋さ夜も 拾ひくさるる也
一 けさるるに 心もすれど 秋さ夜も 拾ひくさるる也
一 けさるるに 心もすれど 秋さ夜も 拾ひくさるる也

遺言抄

〇

ちりてゆくふれはあつりあつて彼中
礼乃を奴おと思つてゐるが
一 妻はけつりあつたが自分らしくも
一 男も志つてゐるが先さんも
あつりあつてゆくが自分も
もあつてゐるが
一 母の傍でゐるが自分も
つとめてゐるが自分も
一 母の傍でゐるが自分も
一 母の傍でゐるが自分も

一 母の傍でゐるが自分も
ある也
一 母の傍でゐるが自分も
後と云ふ事
一 母の傍でゐるが自分も
とちりて
一 母の傍でゐるが自分も
のんやり
一 母の傍でゐるが自分も
一 母の傍でゐるが自分も
一 母の傍でゐるが自分も
一 母の傍でゐるが自分も

後と云ふ事

一 母の傍でゐるが自分も

下 藤原 源氏文の下あり

一 志はあへのきり くれあゆいさな也

一 一のきり 懐妊のころ 誕生ありてりやうちり

一 下りそあひせいんとおかりめす也 ちれお

一 ちわがあひせいんとおかりめす也 ちれお

一 うらんのおけいも さなうあらんも也

一 ああーりー さなれは子かあはさるれどと

一 ちあそとるあやともは誕生あーをせむい

一 うーうらんー ^{あま}あまもさうーあーはくはあせ

一 ちあうせむいせいんとあうーあす也

一 ちあのもうも 母のあもやま ^{あま}あまのさな

一 此は ^{あま}あまのあまに母とあまのあま

一 腹の字は含りり ^{あま}あまやハは誕生あーをせむい

一 ちあうらんー ^{あま}あまのあまのあま

一 ちあうらんー ^{あま}あまのあまのあま

一 ちあうらんー ^{あま}あまのあまのあま

一 ちあうらんー ^{あま}あまのあまのあま

一 ちあうらんー ^{あま}あまのあまのあま

一 ちあうらんー ^{あま}あまのあまのあま

一 ちあうらんー ^{あま}あまのあまのあま

一 又乞 源氏 ^{あま}あまのあまのあま

源氏

源氏

秋まゝんと女君乃常懸れ其跡入り秋や乃あ
んとよあ家寄りまうし也。志づきもてんも
れ初也

一舟の舟 唐泊 くらご満り也今の故みあり人にもよ
ら守るもははあもこ 御覧し入るも今も平

一は大吏 道成し あはりの園をたのむごま
かりへし

一大裁のあり くら女乃あるに大吏のまうら
よひるらまを 大吏乃あを女君の懸しと
あふは乳母をさるのんごをまうら 大裁の女をよ
ら張らると後ま也

一とさぬうはぬり 女君乃あはつらま
あふとあやうはごこく 懐妊中ハ物ありい
まはるまを思ふもひちるべし 懐妊中あ
かりふ人又あひ張らんや也

一してある 先のと大吏ありてまうら
うまは張るはあまのこころちぬくを
しんがらま也

一うらむのうらて 乳母後まてまけるも
一むけあまの世とく くらご満りあてまらべし
あはるまもあ

一あうれてまあはあやあまあはあまんと也

飛鳥井志守

繁くひらく一肩より越新なる人し

ありしわらわさ 今夜の天史より此録より下

あふま也

破珍あひのせふ

背灘也

ちやきさの さ夜へ月乃借ゆと志く

てくはれや也

源氏の子乃志れ入るの物とく也

狭衣下紐第一巻

狭衣下紐第二

一のあひひ乃 行恒家集より引致くと

ぬる末拵よと身とそはせれとのあひひ花

一お花がもの引致ふんまはお花が

草ゆれれりまにあらとそ志ふる也

一のあひひ乃 志夜 飛鳥井志守のあひひ也

一のあひひ乃 式部大輔

式部大輔通成

肥前守のあひひ二巻初よりあり肥前

通成

寺の系圖あひひ

常陸守のあひひ

一のあひひ乃 飛鳥井志守のあひひ也

狭衣下紐

二



し終る元の道成よりし事とまめく事
あつらひ

又あれと 道成もまうる事とけんと

あそびもあそび

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

悔也

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

一夫成るより又はそれと げは元大武が役

乃引^{ひき}引^ひち^ちち^ちし

一第^ち乃^の 女^に子^しを^をお^おの^のい^いま^まく^くあ^あり^りと^と也^也

一乃^の引^ひ引^ひと^とい^いは^はれ^れり^りと^と也^也

一乃^の引^ひ引^ひと^とい^いは^はれ^れり^りと^と也^也

一乃^の引^ひ引^ひと^とい^いは^はれ^れり^りと^と也^也

一乃^の引^ひ引^ひと^とい^いは^はれ^れり^りと^と也^也

一乃^の引^ひ引^ひと^とい^いは^はれ^れり^りと^と也^也

一乃^の引^ひ引^ひと^とい^いは^はれ^れり^りと^と也^也

一乃^の引^ひ引^ひと^とい^いは^はれ^れり^りと^と也^也

一乃^の引^ひ引^ひと^とい^いは^はれ^れり^りと^と也^也

又^{また}い^いは^はれ^れり^りと^と也^也

一乃^の引^ひ引^ひと^とい^いは^はれ^れり^りと^と也^也

式部卿宮 後式部卿宮

堀河大内上^{堀河大内上}

堀河大内上^{堀河大内上}

後深院^{後深院}

一乃^の引^ひ引^ひと^とい^いは^はれ^れり^りと^と也^也

一乃^の引^ひ引^ひと^とい^いは^はれ^れり^りと^と也^也

一乃^の引^ひ引^ひと^とい^いは^はれ^れり^りと^と也^也

一乃^の引^ひ引^ひと^とい^いは^はれ^れり^りと^と也^也

堀河大内上

堀河大内上

かあをいあがりての詞し

「宰相」中務大夫の娘は此のめと「巻」のあやめ
の舞とよまなくもらし「あやめ」はあやめ
のあやめ也

「大まゝのあやめ」あやめは「あやめ」のあやめ
よまなくもらし中務大夫の娘は此のめと「巻」のあやめ
のあやめ也

あやめはあやめ也

「あやめ」のあやめはあやめ也

あやめはあやめ也
あやめはあやめ也
あやめはあやめ也
あやめはあやめ也

「あやめ」のあやめはあやめ也

「あやめ」のあやめはあやめ也

あやめはあやめ也
あやめはあやめ也
あやめはあやめ也
あやめはあやめ也

あやめはあやめ也

あやめはあやめ也

あやめはあやめ也

あやめはあやめ也

一 左を六 明くこのとれぬ也

名謂

一 右を六 明く

首級一云りは神申す

自形醜

其の同は作らんき上下界

同をいふがくれどもくわいせん也

至るもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

西白河也

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

一 出らぬもくは

母中まきくし 海めしうらふきしはらとの路りすうやう
あめら鉄とてうらふらるる路りすひひとらふらうと
ちりけうくさると申すもかたはらう

一 けいこくそ たくさつ海うり 狭衣の烟也

一 ゆさの 引そ我々人あさめそ大母のゆいれた
やううのあひはらうまう

一 ちやらちやちやぬ さな乃らひらうし 狭衣のあ
あへし くらうらうのさ女二文の法神也

一 くらふらう ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん
人はこれいふもいふもいふもいふもいふもいふも

一 ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

一 ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

一 あまてん 女二文の法神也

一 ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん
國へ大母の乳母下 狭衣の乳母也

一 ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん
一本のまらあ 未劫 叱云ゆくはあがそのの音

一 ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん
あて叶ん母宮の子あらひさやうう あべらあ

一 ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん
あまてん 女二文の法神也

一 へんりまひらねくさけ 餅うりもあはれんらそこ
 一 ころりねんちうりやや歌よまひくく 月もく
 一 何よりあてうとハ中納言伝が事をものほり
 一 中納言まけ 女二の所柄もくかき
 一 ねまも釣き屋引悪むして秘伝のこまげをま
 一 ぬれ花乃下うあまも為ま
 一 ちごちのちやと ちていさうりあし夜派う
 一 あまもまひついでい思ふ也
 一 うと 東海のみちれまてあはれんち帯れ也
 一 ちたうりまもあまんとぞあま
 一 ちのこの本林 本林 引わらふよのちあまん
 一 ちれも伝あまのりの枝まもあま
 一 一はうらうらま ちいあうらんまてハ何也 及んお
 一 こさんとさ衣れあせらうくねんちりしあめ
 一 ちも也

一 恋の屋三丁 中納言伝の也 あまのうまてら
 一 絲入のちり月通心ハつと也
 一 ちうららせれ
 一 一はり急のいも 葉子地(あひま) 面白めて白とまらべし
 一 ちる屋事此あるまあまの女二のちうてん文の
 一 ち赤色あかひくちあかあはれあはれあはれ
 一 ち中納言くもあはれあはれあはれ
 一 ち中納言くもあはれあはれあはれ
 一 ち中納言くもあはれあはれあはれ

一 文二

一 雲の引^ひた^たき^きを^をし^した^たく^くそ^そう^う物^{もの}を^をお^おく^くら^らの
空^{そら}も^も人^{ひと}を^をお^おく^くら^らの

一 方^{かた}の^の方^{かた} 道^{みち}の^の所^{ところ} 如^{ごと}く^く也^{なり}

此^{こゝ}に^に源^{げん}氏^しの^の事^{こと}の^の所^{ところ} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 比^ひ古^こと^とハ 源^{げん}氏^しの^の事^{こと}也^{なり} 松^{まつ}の^の事^{こと}も^もい^いふ^ふに^に似^にて^て見^みえ^える^る

一 又^{また}い^いふ^ふに^に似^にて^て見^みえ^える^る 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり} 如^{ごと}く^く也^{なり}

一 昔はついでとて 昔は子孫念あり 古き人の心
あべー

一 せんどう 禁中^{きんちゆう}の時^{とき}なり 遊^{あそ}び也

一 わささきひさし 女二へたまふなり せきせき

一 せきせき 女二を我方の所懐^{くわい}娘^{むすめ}と名^な給^{たま}ふ
もあ也

一 せきせき 女二を我方の所懐^{くわい}娘^{むすめ}と名^な給^{たま}ふ
もあ也

一 侍のまげれや 御也 杖^{つゑ}長^{なが}乃^の所^{ところ}も 御^ごら
ら 一 せきせき 女二を我方の所懐^{くわい}娘^{むすめ}と名^な給^{たま}ふ
もあ也

一 我^{われ}も 一 せきせき 女二を我方の所懐^{くわい}娘^{むすめ}と名^な給^{たま}ふ
もあ也

一 一 せきせき 女二を我方の所懐^{くわい}娘^{むすめ}と名^な給^{たま}ふ
もあ也

一 一 せきせき 女二を我方の所懐^{くわい}娘^{むすめ}と名^な給^{たま}ふ
もあ也

一 一 せきせき 女二を我方の所懐^{くわい}娘^{むすめ}と名^な給^{たま}ふ
もあ也

一 一 せきせき 女二を我方の所懐^{くわい}娘^{むすめ}と名^な給^{たま}ふ
もあ也

一 一 せきせき 女二を我方の所懐^{くわい}娘^{むすめ}と名^な給^{たま}ふ
もあ也

一 一 せきせき 女二を我方の所懐^{くわい}娘^{むすめ}と名^な給^{たま}ふ
もあ也

一 一 せきせき 女二を我方の所懐^{くわい}娘^{むすめ}と名^な給^{たま}ふ
もあ也

一 一 せきせき 女二を我方の所懐^{くわい}娘^{むすめ}と名^な給^{たま}ふ
もあ也

一 一 せきせき 女二を我方の所懐^{くわい}娘^{むすめ}と名^な給^{たま}ふ
もあ也

大まの 大ま乃は懐妊と物事の乳母をいと思
 案してゆつと奏しし事も也
 ちびくの 月乃さりやむてれ子とちびと
 此のト此あゆも 故より引ニあま
 吹ちらぬ 所ゆき くれちり 女ニまをり
 せんまをり 所ゆき ちりうりされとの浮紋也
 したたじぬ 所ゆき せめつぬちり
 おとろきちがく 所ゆき びあがくハけこといあら
 きたぬとを 所ゆき 女ニうりせむちりぬらん
 どののり 後非 あさしらゆ 藤系 のぬく 藤系 志のちりぬられど
のちりぬるちりぬる人のちりぬる

一人あま 所ゆき ぬれちり
 みるを 所ゆき 信ちるみるをといふ
 ちりちり 所ゆき もゆりぬる 所ゆき のゆりぬる
所ゆき ちりぬる 所ゆき ちりぬる
所ゆき ちりぬる 所ゆき ちりぬる
所ゆき ちりぬる 所ゆき ちりぬる
所ゆき ちりぬる 所ゆき ちりぬる
所ゆき ちりぬる 所ゆき ちりぬる
所ゆき ちりぬる 所ゆき ちりぬる
所ゆき ちりぬる 所ゆき ちりぬる
所ゆき ちりぬる 所ゆき ちりぬる
所ゆき ちりぬる 所ゆき ちりぬる

一 好素よみやうら ともなふれとて 笑ふらあはく
 としおのころも地 屋上人もあつちあつち
 伊勢物産源氏一唐の故よりいふら
 一 ちよふあふれりき ぶち神あつちあつち
 一 ちよふあふれりき ぶち神あつちあつち

一 ちよふあふれりき ぶち神あつちあつち
 一 ちよふあふれりき ぶち神あつちあつち
 一 ちよふあふれりき ぶち神あつちあつち
 一 ちよふあふれりき ぶち神あつちあつち
 一 ちよふあふれりき ぶち神あつちあつち

一 ちよふあふれりき ぶち神あつちあつち
 一 ちよふあふれりき ぶち神あつちあつち
 一 ちよふあふれりき ぶち神あつちあつち
 一 ちよふあふれりき ぶち神あつちあつち
 一 ちよふあふれりき ぶち神あつちあつち

まゝもーわんものよめ

よのれはくく 引平もあ

一 ちのり 大ま ちり果してあつた

一 ちのり 倅 又より 比 君辱 死

一 おまのうそよ 我ううまちく 女 けひ

一 心 ちのり 世 ちり す ち 娘 文の は ち ち ち

一 心 ちのり ち ち ち ち ち ち ち ち

一 ちのり ち ち

一 ちのり ち ち ち ち ち ち ち ち

一 ちのり ち ち ち ち ち ち ち ち

おまのうそ

一 ちのり ち ち

一 ちのり ち ち ち ち ち ち ち ち

一 ちのり ち ち ち ち ち ち ち ち

一 ちのり ち ち

一 ちのり ち ち ち ち ち ち ち ち

一 ちのり ち ち

一 ちのり ち ち ち ち ち ち ち ち

一 ちのり ち ち ち ち ち ち ち ち

一 ちのり ち ち ち ち ち ち ち ち

おまのうそ

おまのうそ

おまのうそ

おまのうそ

おまのうそ

とよむらん

一玉藤うけあま 尼入道あまのうけのいし

一とよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一とよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一とよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一あまのうけとよむらん 倭やまとのうけとよむらん

一ちりしやあともかへりてあはれなる世にあらはれしは
源氏まゝの御心なむとていへりし御心

一とらふとせらひちがひのよきものなる物なる
とてついでに流るるもてまはるる世にあらはれ
まはるる世にあらはれし御心なる御心なる
我もいさな也

一えさかへぬ あかどひちがひなる事あるまゝ
るやあはれ也

一うちそむるん 源氏まゝ

一引やりしは乃あはれなる世にあらはれし
源氏まゝの御心なる御心なる也

一とあめはくた山嶽山まはり山まはり思ひ入
りハらりしは乃あはれなる世にあらはれし
源氏まゝの御心なる御心なる也

一左めしそりあはれなる世にあらはれし
源氏まゝの御心なる御心なる也

一まののらりしは乃あはれなる世にあらはれし
源氏まゝの御心なる御心なる也

一正月一 上流しそりあはれなる世にあらはれし
源氏まゝの御心なる御心なる也

一あはれなる世にあらはれし源氏まゝの御心なる御心なる也

一 乃々の 龍舟并君の殿めて 誕生あふまじき
ま乃さ海あふんまと思ふ也

一 流るるも 奇ふくまそくしきしあふべし
まのまよひまふらぐ

一 流るるはれあふく そまふもさうまふさうさう
あはあふくも也

一 つまてらんとも 龍舟并君の御也哉とつけて
みんと思ふくそまふさうさうさうさうさう

一 流るる水 あふまふらけさうさうさうさう
くさうさうさう 袂衣くれあ

一 流るる水 袂衣奇也源氏刀さじん人の心

あふく

一 流るるまふは款の森 源氏のみゆへ何さうもた
りひくちあふくし也

一 つまてらんとのやう さあ一のち思ふはまふれ
まふりしと別刻乃やうさうさうさうさうさう

一 流るる水 唐泊あふく女さうさうさうさうさう
あふく也

一 流るる水 袂衣くれあ

一 流るる水 女二の心まあ平日のは後あふ
まのあ つまのあまふまふまふと具して中あふ

流るる水

流るる水

一 ちびが引世中ふあつまうらやと思ふ人のちまきが
ありくとぬけり成

一 ありとぬけり 又女ととと女へと思ふちまうら

一 大将乃と云 さまのいふせしとめし出されて也

一 むさしーのく引寄つて勅ゆると此らちまうら

一 神の中もや 引寄つて勅 私勅を全あうさうし神の

中もや今らん我うなまうらぬのちびちまうら

一 ちまうらうらして 出出家より中くはちまうら

一 ちまうらへ中御也

一 ちまうらう 女二とそ也底このりけいハ勅を野系
のちまうらちまうら也

一 ちまうら 福ちまうら母と也ととちまうら
ハ勅とらんもの也也

一 ちまうらうらと ちまうらととと也

一 申えつとちまうらとちまうら ちまうらととと

一 ちまうらととと 申えつと天子又ちまうら

一 ちまうらととと也

一 ちまうらととと ちまうらととと

一 ちまうらととと ちまうらととと

一 ちまうらととと ちまうらととと

一 ちまうらととと ちまうらととと

一 ちまうらととと 面馴也

一 祇院 女一宮也

一 さむし さ衣(女二)ととるは一也

一 わるまをともぬく北縁きたのりをうるともさ衣さいのあつ事

一 路いちんや也 ひとりふともちる 天子北きた内也 独ひと行ゆくはゆへあ

一 らんとあがあめせむ内うちへさるは遺い言ごひさ

一 うらうりり 一卷ふもあつ相あひむくくあつせ

一 らあひん也

一 祇院のあり

一 さむしとちられ 女二は入通いとおり又女三也

一 神かみのいそまはちく

一 表あまのあませ めびめをたまふもはらぐの場ばを

一 おがおああやうやしてまままのほゆ中ちゆうのあをれ

一 ちりすと也

一 女むすめ侍しやう代だい

一 志こころき徳とくのあまるとあはあわと立た井いよ

一 我われもいさ衣い也えそののううの源げん氏しまをんんひさせ

一 おひひりりりねとあはひんんあまのささちら縁縁

一 習ならししきととらりりあとてはあつて大納だいなまの

一 着きして袷あは衣いのひんんとて拵つくり物ものさうとも

一 志こころのあつ縁縁 袷あは衣い弁べんの日はあつ縁縁とあつあ

十一

十一

のうさり秘にあつるもとやせ也

一ら到しよや又やとらんまかりけし

一ぬりしよりいふやう山へあつてと云ふるべし

私勅古今 志での山林しんりんと云ふそらありあつて

人よりと云ふもさうとて

一夜くやせんさうんごらわがまぬの野がうまの

系けい系けいが花もさうやさ公こう連れん 催馬系さいばけい

一さうりあつて 上畧ちる人し又細子をさう

しつものん也

一くれみの 古物ふるもの也

一三秋さんしゅう而に宮漏みやろう正長せいぢやう空階くうかい雨滴うてき

萬里ばんり而に鄉園きやうえん何在いかに在に落葉らくえつ窓深まふか 然賦張讀ぜんふぢやうどく 題下也

一秋宮 誰たれをもさう 一和わ二系院けいゐんくれさる

一家いへより大膳だんぜんふると又あつてと云ふせぬとて一系

院ゐん始はじめ也

一夏乃なつの夜よ 源氏げんじも也 祇作ぎさくよりの寄よのの城川じやうがわ

一夏の夏なつ中ちゆうににおほおほせしし寄よののくれくれ也

一ちち中ちゆうく さな乃のののちちり

一あつてもあつて 引寄ひよ系勅

一くく團だんのの中ちゆう將しやう 故車こぐるま系勅

一天武てんぶ 御系みけいして三河さんかへ下くだし候

一とらふまは 母院より女流りにおろしつるもあはれ日
 なるぞうらんとありしちげくを母院のうらむを
 さしめざるらんとうもつくと思ふを理とる
 しつるはさかしく

一尼下りあはれせん 臨りつるをあがけくあらん
 らんと御後うらみたり 母院へまははし
 おや余れくきりりえあひぬりし今より
 ぐさばとせ

一林ののそり 志のへそく 志ふもく 志ふもく
 志ふもく 志ふもく 志ふもく 志ふもく
 志ふもく 志ふもく 志ふもく 志ふもく
 志ふもく 志ふもく 志ふもく 志ふもく

一ちとせのうらむ

一我意のそり 我意のそり 我意のそり 我意のそり
 一あはれうらむとありしちげく

一歌院のうらむ 女流のうらむ

二葉の門もさけ 法苑の門もさけ

二葉の教は縁えと云ふ葉の葉を

一月にせし川 志せしとみるし河を

うき新ちうもさかぬにわがふりともくと
 はか新れんも新けすものふらんともとせ

一ちよやま 狭衣むうらむれうらむの憂が

あじしと也

一 一は後世にまじりてあつて人しと也又道世乃

らちるべししげあつていふはあつてものといふれり

一 大將の岩井まの井あつていふ文字入ふ可か珍めづし

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

一 一はあつていふ可かいふ世にまじりていふ

悉くくろくん 古今

一 妙を此みづひ 飛鳥并鳥のるちるべし

一 うき舟のあより 狭衣くくを廣りせしめり也

一 乞人命終 善悪別は花書寫の功徳り

よりそ天よせしめ 終る終る人命終當は切利

天とさけり也

一 石山とそ け寺に列石山とみり也

一 寺の堂僧修り也

一 茶王汝當知 如乞法人等

一 是經難得聞 信受者亦難

一 穿鑿金於高原 猶見乾燥土

法師和偈也

如人渴須水

知去水尚遠

漸見濕土泥

如是法人等

一 我尔時為現

一 着說法之人

一 讀誦此經典

一 若忘失章句

決定知近水

不聞法死經

濼澤光明力

一 獨在空闲處

一 我尔時為現

一 為說今通利

茶王汝當知

去佛名甚を

同

寂寞無人群

清淨光明身

狭衣下 叙第二終

法華抄二

三十五

狹衣下 何第三

一昔ゆりたるのしきも此を 枝ももる本もさへし
口傳る是源氏のまゝなりと少くめはるる也

一し海峽さく 大度母愛もさるべし

一も 明^{あき}引^ひ舟^{ふね} 天^{あま}の能^の城^{しろ}も 明^{あき}月^{つき}み事^{こと}は憂^{うれ}入^い

志^{こころ}をさるるもける

一も 一もはばらももあはし 源氏乃まもる也

一も 一もはばらし 紙^{かみ}障^{ざう}子^こ也

一も 一もはばらし 列^り舟^{ふね} 踏^ふ江^えあしたるしを 船^{ふね}行^ゆりへりあはし

一も 一もはばらし 人^{ひと}のあはらもあはし

一も 一もはばらし 道^{みち}もあはらもあはし

狹衣下 何第三

〇

一やまの川系 別帝未勤

一うらたのひ 雨適せちるべし

一ちやもを湯あくは養性也 倍は日やあへん

一なる介し

一阿私仙人 二目的法師と云作し 釋尊因位の時

一とまるとして法師のまゝあに位と推し 阿私仙人より遠

一て法花經と云経つりさして千歳の間榮摘水汲

一て仙人は流久紗入り仙人まことの控波也

一つあがち 引奇 年と少る涙うらた遠より八粒も割

一乃涙まされとや 和列あふし 池の影もあふ

猪鬃はも須あぢらんうぬあつるもを

一無草 流子のり也

一歌宮 女三交也

一歌院 女一交也

一やうく位者乃里

一ちやうく位者乃里 源氏より弁はん張おさりこ

一とまが平茶おくと云綱より浄れ涙也と後

一屋も回らるるべし

一ちがわくこころも

一さだめんあそ 入道の法門を吹ぐさ落くと

一しそんあくし女二からひらきさそを云作也髪を

みどりたといさげ^{あま}居^{あま}の^{あま}養^{あま}也
うた^{あま}あ^{あま}を^{あま}舞^{あま}か^{あま}れ^{あま}あ^{あま}も^{あま}と^{あま}も^{あま}女^{あま}二^{あま}ハ^{あま}の^{あま}や^{あま}う^{あま}に
あ^{あま}が^{あま}あ^{あま}は^{あま}な^{あま}も^{あま}也

一めさ^{あま}
一ち^{あま}り^{あま}は^{あま}の^{あま}と^{あま}女^{あま}三^{あま}交^{あま}乃^{あま}古^{あま}統^{あま}と^{あま}也^{あま}げ^{あま}ん^{あま}後^{あま}統^{あま}よ^{あま}う^{あま}に
給^{あま}なり

一か^{あま}う^{あま}の^{あま}は^{あま}は^{あま}る^{あま}毛^{あま}う^{あま}と^{あま}入^{あま}道^{あま}の^{あま}交^{あま}乃^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}
一あ^{あま}は^{あま}あ^{あま}り^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}か^{あま}う^{あま}に^{あま}母^{あま}交^{あま}乃^{あま}居^{あま}ん^{あま}と^{あま}思^{あま}食^{あま}也^{あま}
一あ^{あま}は^{あま}あ^{あま}り^{あま}母^{あま}交^{あま}乃^{あま}あ^{あま}り^{あま}あ^{あま}り^{あま}入^{あま}道^{あま}交^{あま}乃^{あま}あ^{あま}り^{あま}
一あ^{あま}は^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}

一あ^{あま}は^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}

一あ^{あま}は^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}

一は^{あま}ひ^{あま}より^{あま}ハ^{あま}中^{あま}統^{あま}乃^{あま}交^{あま}乃^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}
て^{あま}え^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}

一あ^{あま}は^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}双^{あま}子^{あま}也^{あま}

一あ^{あま}は^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}
ね^{あま}ど^{あま}も^{あま}養^{あま}母^{あま}の^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}
乃^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}
一母^{あま}ハ^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}
一あ^{あま}は^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}
の^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}

一あ^{あま}は^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}

一あ^{あま}は^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}

一あ^{あま}は^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}

一あ^{あま}は^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}

一あ^{あま}は^{あま}あ^{あま}り^{あま}居^{あま}ん^{あま}也^{あま}

一 おやりのゆり おやりのゆり 大政大臣

一 かのや か 八坂川原也

一 やりのゆり やりのゆり 天子のゆり ゆり 石戸と女院の

ゆり ゆり 故院崩潰 已後花くし はなくし とも

一 入る い 八坂川原のゆり ゆり 八坂川原

一 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原

一 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原

一 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原

東院上 東院上 八坂川原 八坂川原 今 今 八坂川原 八坂川原 八坂川原 八坂川原

一 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や

一 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や

一 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や

一 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や

一 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や

一 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や

一 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や

一 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や

一 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や 八坂川原 や

一 留んを 志^し發^せとて 正^し也

一 子^をい^はし^て 後^に母^をの^り也

一 子^をい^はし^て 父^の出^の時^に 父^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 如^しくも^も 父^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 如^しくも^も 父^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 如^しくも^も 父^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 如^しくも^も 父^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 如^しくも^も 父^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 如^しくも^も 父^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 如^しくも^も 父^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 吉野川^の 水^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 吉野川^の 水^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 吉野川^の 水^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 吉野川^の 水^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 吉野川^の 水^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 吉野川^の 水^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 吉野川^の 水^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 吉野川^の 水^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 吉野川^の 水^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 吉野川^の 水^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 吉野川^の 水^をい^はし^て 母^をい^はし^て 母^を代^りに^て 立^しる^也

一 卷の編はよつらんつむきとあがらぬとて

一 名のもつらうしとて

一 女院うら 東院のうら所ら也時くおらとら
と及と非美よつらとてひ給とぬ回らとて

一 あつちとて 未勅

一 繪は苗代

柳様と 考あ合よりうもあれは乱

一 ころも也 不矢矢えりぬらうらえり入らとて

一 也 源氏未擲ありある河也

一 わらぬら 母代のらと也

一 一巻の編はよつらんつむきとあがらぬとて

一 ころも也 不矢矢えりぬらうらえり入らとて

一 也 源氏未擲ありある河也

一 わらぬら 母代のらと也

一 一巻の編はよつらんつむきとあがらぬとて

一 ころも也 不矢矢えりぬらうらえり入らとて

一 也 源氏未擲ありある河也

一 わらぬら 母代のらと也

一 一巻の編はよつらんつむきとあがらぬとて

一 ころも也 不矢矢えりぬらうらえり入らとて

一 也 源氏未擲ありある河也

つらむらとをり かのありつら 楊貴妃のありてし
あびるあししりし 懐妊あがく 水よ入るまこと
く志死とせ

一 くらう 百日也

一人の由とふ 引新 人乃親れは 園りあはれと
み然るふ 遊下りまごひぬる也

一 遠山鳥 海ごそくあつん也

一 あつんさうけく 源氏と後の巻よある也

一 ままをたぐ 慶らりのあつんさく 曉るあつん月影

一 は 定都也

一 秋の夕也 さまのあつんこれなるべし

一 云何女身速得成也 提波也 舎利弗也 女

一 是對して五階の女乃力とてまもやうに成はる也

一 つゆあつんさくまことの流る河也

一 右政大臣 治世をちり 竹末のあつんひも也

一 くらひり 堀川原水也 車流のくらひり

一 流るり

一 一ある 叱字也 天下のくく一層とてまもなり

一 浦かふふ 丸らららとくじとりの心ははせよ

一 ぐとのあり流し 勢をきくもて 浦西とあつん
て西國の守領とせ也

一 月日とこれと お徳 一多勢
 女院 後一多勢 女母 太政大臣 沖女
 姫君 後一多勢 沖女 太政大臣 沖女
 女院 ささの ぬくくの の ぬく女 花鳥 沖女 太政大臣 沖女
春の けり
 女院 ささの ぬくくの の ぬく女 花鳥 沖女 太政大臣 沖女
 一 糸 糸 一 糸 糸 一 糸 糸 一 糸 糸
 一 糸 糸 一 糸 糸 一 糸 糸 一 糸 糸
 一 糸 糸 一 糸 糸 一 糸 糸 一 糸 糸

一 糸 糸 一 糸 糸 一 糸 糸 一 糸 糸
 一 糸 糸 一 糸 糸 一 糸 糸 一 糸 糸
 一 糸 糸 一 糸 糸 一 糸 糸 一 糸 糸

一 糸 糸 一 糸 糸

一 ありひやまの 舟をくらふあづきめしちんやんてん
魂が切てぬれ衣とさきくさくさ

一 されむあそ ありと 堀川及の法ん中ちるべし

一 ありきりきり さり

一 世の海り 物もさあまれけちまやんひんを
笑ひひめる

一 かん又うさ 八通文と何とやん自他法ゆき
ふやうちらう一ふ一虫のえあどバをさきさる
又ぬくろくさし上下略

一 かんよのあましちるさ 八通のえ乃法ん也

一 許はしし 奇あり可動 柏子と云わ列を

武筆 藤又志くろ製女ありる我ち一がらに
時又ぬれ 暈降くろ下又小女あり乞と暮る貧
女又孝ありて芥と摘て乞とさあゆるあ徳たさ
け啓了んむきと口ばひん法んるに春母若り
さ也 私云 び故事不為疾只く物の叶らぬるはつあ
一 ありさくろくろふ ぬの漏れ法は法んてとくさ
奇と 奇くくぶろくろんと也
一 くりと本の奇 抜衣也
一 悲うとひくく 梅子ありてあま乃る法んるあ人作
らる也 悲にく法ん入通文とを自他法んゆ
さるやうありしよ一あまちとひん也

一 武筆 藤又志

一 梅子

一 おまの心は藤原御子の我々とは異なりとあり世をうら
 一 さしくふるにいと色ゆるすと いらぬとあはれ
 一 まり一ふみの心はゆるさるる一と也
 一 ちるぬま むし一物倍ある一
 一 ちあふささし ちあふのちさめぬ好ましくあがり先
 一 ささうんがささかあれぬささし又ささしとささし
 一 向ら也
 一 つくつくつく ちあひさるるもささしとささしと切べし
 一 ささしくささしとささし
 一 みつづくのはたにあはれとあはれとささしとささしと
 一 りささしくささしとささしとささしとささしとささしと

一 つくつくつく ちあひさるるもささしとささしと切べし
 一 ささしくささしとささしとささしとささしとささしと
 一 も田んぼ也
 一 つくつくつく ちあひさるるもささしとささしと切べし
 一 ちあひさるるもささしとささしとささしとささしと
 一 ぬむむむむとみぬめの海也ささしとささしと
 一 けささささ ちあひさるるもささしとささしと切べし
 一 ちあひさるるもささしとささしとささしとささしと
 一 ちあひさるるもささしとささしとささしとささしと
 一 ちあひさるるもささしとささしとささしとささしと
 一 ちあひさるるもささしとささしとささしとささしと
 一 ちあひさるるもささしとささしとささしとささしと

一 藤原御子

一 藤原御子

一 流くくも也室の八倍奇可 又義合官方勝給分父三縁
 一 垣におあつ 又義合官方勝給分父三縁
 一 一やさむらひれ 又義合官方勝給分父三縁
 一 の花をへる宮さ 又義合官方勝給分父三縁
 一 一あまうハ大方あく 又義合官方勝給分父三縁
 一 一やさむらひれ 又義合官方勝給分父三縁
 一 くやしと 又義合官方勝給分父三縁
 一 一びとあくとあく 又義合官方勝給分父三縁
 一 一川前野乃 又義合官方勝給分父三縁

進くはせん

一 一まをれをむひく 又義合官方勝給分父三縁
 一 一花乃目と川 又義合官方勝給分父三縁
 一 一花うとく 又義合官方勝給分父三縁
 一 一善美乃 又義合官方勝給分父三縁
 一 一ものま 又義合官方勝給分父三縁
 一 一まれを 又義合官方勝給分父三縁
 一 一むさ 又義合官方勝給分父三縁
 一 一女院 又義合官方勝給分父三縁
 一 一おさ 又義合官方勝給分父三縁

一 尚ふはあていりくはるあんとあまき院も 疾まが疾め院也
 私 女院乃所る也。の終り終るをからして出とるを
 てこと兼あはくつひはくも終也

一 安あ終るる 己女の所子と云るは女院と終つ
 と也

一 あまのくく 女院の所也 倍か倍也

一 はあくくあくととと 己女の心也

一 又つに 女院の所也

一 院乃所くく さ終れん さまあまのくわきとく
 あま、女院あまのま女子此所をまめようん
 一 一ひあまのくく 女院まのくをまあといひ

一 己のくく己のひあ 女院もさ終れん女院あま
 の所剛とまのあまのくくあまのくひあまのく
 とあまのひあまのく女院あまのく

一 うちつあまのくあまのく 決かあまのく
 一 己のくくあまのく 己のくくあまのく

一 己のくく 女院は独いはあまのく
 一 己のくく 女院は獨いはあまのく

一 院乃所くく 己のくく 己のくく
 一 己のくく 己のくく 己のくく
 一 己のくく 己のくく 己のくく
 一 己のくく 己のくく 己のくく

一 子のちりみ交をば母 二 女乃侍かちり
一 面をさし 二 女と似おくるや 流刃入る
あふ也

一 さきとへああがら 入道文治建後非致治名概
と也 心ゆくまあぐくきよ 一 長中二角也 のくれか
くるまけさわれさぬあより一 奇あり 一 せとく流
かまは入る宮より通秘抄の一時也

一 入道乃まも 一 女御也 一 女御也
時乃る也 入道の宮とあひしころ入宮せり也
つとくりしと也 一 女御也 一 女御也
一 女御也 一 女御也 一 女御也

一 常盤 尼公 小宰相 一 常盤の女御の官女さ夜時
一 常盤 一 常盤 一 常盤

一 常盤 一 常盤 一 常盤 一 常盤
一 常盤 一 常盤 一 常盤 一 常盤

一 常盤 一 常盤 一 常盤 一 常盤
一 常盤 一 常盤 一 常盤 一 常盤

一 常盤 一 常盤 一 常盤 一 常盤
一 常盤 一 常盤 一 常盤 一 常盤

と多由をみせたりぬき也
一 廣くも 堀川 廣かち也

一 故階 加美系へ大おありし也

一 志のふ 源氏文へこれゆかり也

一 ぬらんきり 浮線後

一 らぬぐりしと 一 和文の猶とさひらくをひり

一 若方とくらふ所あり 別奇未叙

一 ゆらとむつび 一 和文とさむしと

一 和文のさむ 源氏文の道世とせんとも常しく

一 和文のさむ 源氏文の道世とせんとも常しく

一 七僧 七人僧供養也源氏に在定

一 吉野川 かの奇ありし

一 死の山 死の山

一 金如 金色 延阿鼻獄 東方万八千世界の光

一 如金色 法花序あり也 法花経と流るん

一 至阿鼻獄 中も佛の面毫相の光上至有頂下

一 弘くも 善賢の務川中へは

一 弘くも 善賢の務川中へは

一 弘くも 善賢の務川中へは

一 弘くも 善賢の務川中へは

一 弘くも 善賢の務川中へは

一 弘くも 善賢の務川中へは

一 弘くも 善賢の務川中へは

一 弘くも 善賢の務川中へは

一 弘くも 善賢の務川中へは

一 弘くも 善賢の務川中へは

一 海のめぐりハ広くも狭くもなりしるも云々也 下の句
古事也

一 海のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く

舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く
舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く

一 舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く
舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く

一 舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く
舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く

一 舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く
舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く

一 舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く
舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く

一 舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く
舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く

一 舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く
舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く

一 舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く
舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く

一 舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く
舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く

一 舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く
舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く

一 舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く
舟のめぐりハ引舟 舟を引く舟の推し舟の引く

一 川崎より入野の薄物屋花より一ツの...

一 一となく此津波の中あはれ平治後ちと...

一 まひりともあはれあはれあはれあはれ...

一 中お奇

一 一となくくさのさあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

一 一となくあはれあはれあはれあはれ...

多く廻向の文也 我亦有福業 今世若過世
及見佛功德盡廻向佛道

一 是を佛の 為るは 此の世に 住するは 存んとも
當也

一 一りくハ 君宮の 神なり せめて 終るまで 句
一 是れを 終るは かりし ともある 事なる 不勤なる

一 一りかん とも也 入道 交不勤 向て ありし 事
西の 世に とも 交の 作ら あり也

一 物も どの 古物 終る 事なり
一 一りられし 掛 終る 事なり

一 一りありし けん 終る 事なり

一 一りありし 事 終る 事なり

一 一りありし 事 終る 事なり

一 一りありし 事 終る 事なり

一 一りありし 事 終る 事なり

一 一りありし 事 終る 事なり

一 一りありし 事 終る 事なり

一 一りありし 事 終る 事なり

一 ありすむらり 原氏のみより所んといふも
 一 ありすむらり ありの奇也
 一 じうしむらん 琴奇特あり也 鬼神あり
 原氏あり
 一 法樂莊嚴 法ともいふ 法ともいふのまあり
 連歌 雑樂乃 純もといふ 法ともいふ
 論義の経 ちんば 法ともいふの法樂也
 一 ありすむらり ありの奇也
 一 大白牛車 法花一佛 衆にもあり
 長老ハ釋迦 如来 法もいふ 法ともいふの舎利
 弗等の 法もいふ 法ともいふの法樂也

一 ありすむらり ありの奇也

一 ありすむらり ありの奇也

袂衣下切第四

一日くるとも心 袂衣の袂縁を想也 法道世れん
るくへし。さらば若くし 袂の袂縁即位あるべき
る也

一 淨縁淨眼の 妙莊嚴王ハ悪王あくましく
たりけ二人の由子と由母の淨徳主人と 雲雷
音宿王花智れ由りとあてさとりとをひくこと父の
悪王法道引をもぐめゆとして 袂縁に及ぶ
あくみましくもあれを父王大は 欽慕して 邪見
とせよふへし 佛不あり 猶あくまのよ 聖者と
好ひぬとも 妙莊嚴王ハ今の花徳弁也 淨法

袂衣下切

四

夫人をこの仏教先照在嚴并也 淨慈淨眼
ハレの業王業上乃あ并也

一舎利弗劫濁乱時衆生垢重慳貪嫉妬成就諸不
善根故諸佛以方便力於一佛乘分別説二十

方世界よん奉并ハ二宗三業乃法ハる也
一院の内まへ 母也

一つとむもともと 入道尼君へ乃て女の内并
一つとむもともと 友引の佛道世れり三巻ト終り

一つとむもともと 心くさひ教行へる尼あてハ難
ととももれびとあつじとちり
一つとむもともと 引され行へるおれ紙を由漢

ぢやうしよの女の終り

一あをい 一教え乃てさも終ひくぢやうも終りともちり
と及沙也家ののんま一ある成りともちり終り
ととももれびとあつじとちり

一あーせん 一あははははを阿私他人よ法也
一あのはま 一あははははを阿私他人よ法也

一あひのあ 一あははははを阿私他人よ法也
乃由并あははは世業花ハちりあははは也

一あよあも 一あははははを阿私他人よ法也
一あよあも 一あははははを阿私他人よ法也
一あよあも 一あははははを阿私他人よ法也
一あよあも 一あははははを阿私他人よ法也

一あよあも

一あよあも

一奇を明あり 母海は独冷の時志くぬ女海は也

一あのをらぬ 排也

一排もろし ともハ母海ゆへありし中しん
也母海はありし中しんもろしありし中しん也

一程志りしを 母海とまま交へとありし中しん也

一三千のふし世界一須弥千と小千世界と号し

小千世界千と中千世界と号し中千世界を

千が三千大千世界也三十二相佛のたねは也

一佛たちを親が三十二あり也 中勢宮ハ
一式都心交上ハ 中勢宮の妹也 中勢宮のたねは也

見の取海美しと云ふ也

一神のしるしを 仏法也入るしん也

一夏あそびしんを 山と云ふ也

一八位は即ち瑞相也

一さきも 心の中はありし中しん也

一あそびしんを 山と云ふ也

一さきも や奇 瑞相也

一うねもにあそびしん 盲龜の浮来也

一さきも 也

一さきも 地也

の我身と云らん 神あるもは刀にれすの由人
色あはじと也

一 心はもや ありては 珠あるも也 抱あさう
うとてと 神あめく ありては 珠あるも也
もらりて 神あひて 神あるも也
うとてと 神あめく ありては 珠あるも也
まはあひ 神あるも也
一 刀にれり 神あるも也 ありては 珠あるも也
一 花梅 ありては 神あるも也
しとてと 神あるも也
ありては 神あるも也

一 ありては 神あるも也 ありては 珠あるも也
ありては 神あるも也

一 ありては 神あるも也 ありては 珠あるも也
一 大政大臣 沖子 ありては 卷大納言 三卷 指大納言
とありては 新中納言 南官也 け巻 兼官
宰相中將と云し也 坊式部 文の由子もと宰相
相の中におもはるるも ありては 大政大臣の由也
一 ありては 神あるも也 ありては 珠あるも也
一 ありては 神あるも也 ありては 珠あるも也
一 ありては 神あるも也 ありては 珠あるも也
一 ありては 神あるも也 ありては 珠あるも也

一 せんせんとしむしにさむくあり
 一 うつらふあまなり 魚枕
 一 かのさくは 源氏物語の巻あるに
 一 束のあまろく 今もまを流儀あり 丹波流
 一 だまひのちあり也
 一 一にちし 車も也 源氏あり だが
 一 五漏を漏あり 之衆のせは五漏あり 佐治
 一 ことらふに五漏也
 一 字もろくふ 二十は或流のまらふあり
 一 一いつかんぢや 栲木の極めあり也
 一 あつひまを 藤原の地也

一 一木とまらふ 栲木の元乃面影也
 一 一進井乃姫君 入道のまはれあり 母は入道
 一 一ちりしつりさむく姫君つらまはれ也
 一 一ちりしつりさむく 栲木の極めあり也
 一 一中將は佐治の姫君の位は位一とあり
 一 一あつひまを 一いつかんぢや 但にまはれあり
 一 一あつひまを 一いつかんぢや 母は入道
 一 一あつひまを 一いつかんぢや 母は入道
 一 一あつひまを 一いつかんぢや 母は入道

一 右のおとこ 宣耀後と系留りあり
 一 のとうおとこのま 新見ゆべらとちりみぬ
 一 一右のおとこ 宣耀後と系留りあり
 一 のとうおとこのま 新見ゆべらとちりみぬ
 一 一右のおとこ 宣耀後と系留りあり
 一 のとうおとこのま 新見ゆべらとちりみぬ

一 くらおやとてえの橋八興列也とあるなりハ及たぬ
 中なるもとてえの橋八興列也とあるなりハ及たぬ
 一 一右のおとこ 宣耀後と系留りあり
 一 のとうおとこのま 新見ゆべらとちりみぬ
 一 一右のおとこ 宣耀後と系留りあり
 一 のとうおとこのま 新見ゆべらとちりみぬ

一 後置持
 一 國未勤

さやけき

一八公を麻衣をきき家室のさびさびと人々をさす

一林をさすあり

一年のわざらと、むらぐらとをぬかすあり

一海にあり年のほりたり、今がさうと、思あて抱

一十節ありと、ありあり

一我も又ささき、十節とあり、秘ぬるあり

一ト懸たさあともとあり、あまのけりあり

一れんやも、一節あり、ぬかす、ぬかす

一海得水

一玉のさし娘君

一秋代人秋源氏、宇治巻よあり

一秋まひひり、ありあり

一あまの御、ありあり

枝の末

の丸

丸ねとあつちめとまきう〜
 と乳母乃独ま〜ハ〜
 一着枕と内をま也一程づら〜
 一くま也 源氏の綱〜
 一一首のちふ〜
 一白糸〜
 一りのおひひの衣乃披〜
 一あえとをぬ〜
 一うらの衣 引〜

の衣乃長〜
 一あ〜
 一あ〜
 一十坪 十齋 具申
 一其落法菜 あり
 一先唯不絶
 一五〜
 一正〜
 一中約ハ大細云居〜

衣乃長

十坪

一 下筆 按察使大納言の筆より始り

一 ちとせりれき 年は あはれ とも あはれ なる也

一 ちとせりれき 源氏のきき也

一 ちとせりれき 源氏のきき也

一 宰相のあつさらん中なるく あひり 内介一 あはれ なる也

一 ちとせりれき 鳥羽の あはれ 勅 あはれ する也

一 ちとせりれき ちとせりれき あはれ なる也

一 ちとせりれき ちとせりれき あはれ なる也

一 ちとせりれき 梅 あはれ なる也

一 ちとせりれき あはれ なる也

ちとせりれき

一 ちとせりれき ちとせりれき あはれ なる也

一 ちとせりれき ちとせりれき あはれ なる也

ちとせりれき

一 ちとせりれき ちとせりれき あはれ なる也

一 ちとせりれき ちとせりれき あはれ なる也

一 ちとせりれき ちとせりれき あはれ なる也

一 ちとせりれき ちとせりれき あはれ なる也

ちとせりれき

一 ちとせりれき ちとせりれき あはれ なる也

一 ちりほりも さいなむとて 又 邦人への 伍長とあは
れし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 ちりほりも さいなむとて 伍長とあはれし也

一 等々 蓬の極位也十位十行十廻白

地等々 妙也

一 水の白波ある由也

源氏字治卷

一 先づりあまん等 今夜也又此也

神也

一 月さふと源氏文也

一 芥は

一 七車 七車は

一 八七車

一 宿るく 結ゆも

一 今上あま

一 心もゆり

一 かの

一 後そふ

一 多ん

一 雲深

一 源氏

一 源氏

三つや也 此 妙術の人形なるべし 此 一

八海と云ふ事 くらまじあり 今上

一 祇壇の枝 同 あり

一 びせぬけと云 亦 卷よみ 体あづる 時乃 夏 中

の 事 也

一 見くして まうり 一 条 流 一 流 の 之 云 海 中 也

一 又 今 之 の 由 子 あり 八 海 流 流 子 共 教 事 也

一 亦 事 也 清 元 殿 の 御 事 也 あり 事 也 あり 事 也

あり 事 也

一 年 ば 事 也 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也

一 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也

一 立入り 中 之 事 也 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也

一 事 也 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也

一 事 也 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也

一 事 也 あり 事 也

一 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也

一 佛 也 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也

一 佛 也 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也

一 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也

一 桐 也 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也

一 事 也 あり 事 也 あり 事 也 あり 事 也

